



まっぴのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

2025年度 学修の手引き

Hiroshima City University
2025 Student Edition Study Guide



Might be your trailblazer.

目次	
人材育成の目標及び各ポリシー	4
学士課程.....	4
国際学部.....	5
情報科学部.....	8
芸術学部.....	11
授業等	14
科目の種類.....	14
単位.....	14
授業時間.....	14
開講区分.....	15
休講・補講・教室変更などの通知.....	15
自然災害や交通機関の運休時の授業.....	16
講義等を欠席する場合の手続き.....	16
担任教員.....	16
障がいのある学生への支援.....	17
履修	18
はじめに.....	18
履修登録.....	18
履修の禁止.....	19
履修登録取消制度.....	19
再履修.....	19
履修登録上限単位数.....	19
他学部・他学科履修等.....	20
単位互換制度.....	20
試験と成績	21
はじめに.....	21
定期試験と随時試験.....	21
受験時の注意事項.....	21
不正行為.....	21
追試験.....	21
成績評価.....	22
GPA (Grade Point Average) 制度.....	22
成績発表.....	23
成績評価に関する異議申立て.....	23
教育課程等	24
【全学部共通】.....	24
教育課程.....	24
地域志向特定プログラム.....	25

【国際学部】	27
卒業要件	28
履修基準	29
卒業論文履修登録条件	30
教育課程表	31
全学共通系科目	31
外国語系科目	33
専門教育科目	34
専門基礎科目	34
専門科目	35
【情報科学部】	43
卒業要件	44
履修基準	45
学科配属	46
進級要件	47
イノベーション人材育成プログラム	48
履修上限解除制度	50
早期卒業制度	50
教育課程表	51
全学共通系科目	51
外国語系科目	53
専門教育科目	55
専門基礎科目（4学科共通）	55
専門科目	56
情報工学科	56
知能工学科	59
システム工学科	62
医用情報科学科	65
【芸術学部】	68
卒業要件	69
履修基準	70
卒業制作履修登録条件	70
教育課程表	71
全学共通系科目	71
外国語系科目	73
専門教育科目	75
専門基礎科目（2学科共通）	75
専門科目	77
美術学科 日本画専攻	77
美術学科 油絵専攻	78
美術学科 彫刻専攻	79
デザイン工芸学科	80

教員養成課程	81
教員を目指す人へ.....	81
教育職員免許状受領資格取得関係科目表.....	85
教育の基礎的理解に関する科目等.....	85
大学が独自に設定する科目.....	86
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目.....	86
教科及び教科の指導法に関する科目（国際学部）.....	87
国際学科.....	87
教科及び教科の指導法に関する科目（情報科学部）.....	91
情報工学科.....	91
知能工学科.....	93
システム工学科.....	95
医用情報科学科.....	97
教科及び教科の指導法に関する科目（芸術学部）.....	98
美術学科 日本画専攻.....	98
美術学科 油絵専攻.....	99
美術学科 彫刻専攻.....	100
デザイン工芸学科.....	101
学芸員養成課程	103
学芸員を目指す人へ.....	103
学芸員資格取得関係科目表.....	103
附属施設等の利用について	105
あとがき	106

人材育成の目標及び各ポリシー

学士課程

人材育成の目標

広島市立大学は、豊かな感性と真理探求への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、幅広い知識と確かな専門性を有し、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

広島市立大学は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の知識・技能・能力を身に付けた上で当該学部が定める審査に合格した学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

- ① 多様な文化・価値観を尊ぶための、人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を有している（知識・技能）
- ② 専門領域に関する体系的な知識・技能を身につけている（知識・技能）
- ③ 発見した問題について論理的に考え、判断することができる（思考力・判断力）
- ④ 自らの考えをわかりやすく表現する能力を身につけている（表現力）
- ⑤ 社会的課題の解決ないしは社会との関わりの中での創作活動に向けて主体的に取り組む姿勢を有している（主体性）
- ⑥ 他者と協働して取り組む姿勢を有している（協働性）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

広島市立大学の学士課程における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

1. 人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を得るため、全学共通系科目を開設する。
2. 多様な文化・価値観に対する理解を深めるのに必要となる外国語によるコミュニケーション能力を養成するため、外国語系科目を開設する。
3. 各学部の理念と専門教育の特色に対応した専門教育科目を開設する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

広島市立大学は、次のような人の入学を求めています。

1. 人間性豊かで、向学心の旺盛な人
2. 知的好奇心と探究心を持ち、知の創造と活用に意欲のある人
3. 世界平和と地域・国際社会の発展に積極的に貢献したい人

国際学部

人材育成の目標

国際学部は、グローバル化の進展など社会が変化する中で、豊かな学識と広い視野に基づいて、グローバルな視点から平和で持続可能な国際社会の実現や地域社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成することを教育理念とし、次のような人材を育成します。

1. 人文・社会科学の分野を幅広く系統的に理解し、分野を統合して思考し判断することができる人材
2. 社会が抱える諸課題を自発的に見出し、課題の解決に向かって主体的に取り組むことができる人材
3. 多様な価値観を持った人々と対話し、協働して課題の解決に向かって取り組むことができる人材

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際学部は、所定の期間に在学し、所定の単位を修得し、以下の専門的な知識・技能及びそれらを社会で活用するための資質・能力を身に付けた上で、卒業論文を執筆し審査に合格した学生に対して卒業を認定し、「学士（国際学）」の学位を授与する。

[知識・技能]

1. 人文・社会科学の知見や理論についての系統的な知識を身に付けている。(知識)
2. 人文・社会科学の分野をまたいで学際的に探求する技能を身に付けている。(技能)

[思考力・判断力・表現力]

1. 人文・社会科学のさまざまな分野に関する知識や理論を基に社会の諸問題を探求することができる。(思考力)
2. 根拠に基づいて論理的に考え判断することができる。(判断力)
3. 自らの考えを説得的に分かりやすく表現する能力を身に付けている。(表現力)

[主体性・協働性]

1. 社会が抱える課題を自発的に見出し、取り組む姿勢を有している。(主体性)
2. 世界の中で、多様な背景を持った人々とともに生きる社会を築いていくために、他者と協働する態度を有している。(協働性)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国際学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

(全学共通系科目)

- ・幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

(学際的なカリキュラム編成)

- ・人文・社会科学の分野を幅広く系統的に理解するための学際的なカリキュラムを編成し、分野を統合して思考・判断し、国際社会や地域社会の諸問題を多面的・複眼的に解決できる能力を養成する。

(専門基礎科目)

- ・国際学部における専門分野を学ぶ上で基礎となる知識と技能を修得し、国際学部での学びを展望することを目的に、専門基礎科目を開設する。(1～2年次)

(外国語運用能力を発展させる科目)

- ・実践的な外国語運用能力を身に付け発展させるため、国際学部専門科目として英語特講科目群を開設する。また、英語を含む外国語で授業を行う専門科目を各プログラム科目群や国際研究特講科目群に開設する。(1～3年次)

(専門科目)

・専門的な知識・技能を修得し、思考力・判断力・表現力を高めるため、以下のプログラム分野に専門科目を開設する。専門科目では、人文・社会科学の理論や知見を幅広く系統的に理解するとともに、学際的な視野を開くことを目指す。各プログラムには、1年次に入門科目を配置しており、2年次以降の専門科目へのスムーズな導入を図る。(1～3年次)

(1) 国際政治・平和プログラム

紛争、テロ、難民、開発、環境などの地球規模の課題を解決するため、国際関係の理論や歴史、平和研究の方法や実践について学ぶ科目

(2) 公共政策・NPOプログラム

望ましい社会を創造するため、人々の生活の基礎である経済や社会のあり方、市民・NPO・政府などが果たす役割について学ぶ科目

(3) 多文化共生プログラム

国家、地域、民族、文化の垣根を越えて、多様な考え方を持つ人々との共生に関する理論や実践について学ぶ科目

(4) 国際ビジネスプログラム

経営学や経済学上の諸問題など、国際的な視点からビジネスについて学ぶ科目

(5) 言語・コミュニケーションプログラム

人間の社会的営みの基礎である言語・コミュニケーションに関する諸問題を学ぶ科目

(演習科目、卒業論文)

・発表や討論などの主体的な学修を重視する少人数双方向での演習科目を、1年次から4年次まで継続して開設する。自らのテーマを多面的に追究するため、3年次には複数の専門演習の履修を可能とする。各年次の演習は、国際学部における学修の集大成としての卒業論文に有機的につなげる指導と結び付ける。

(1) 国際学部における学びに必要な知識・技能や協働性に加え、関心・意欲を持って学び続ける態度を身に付ける基礎演習（1年次）

(2) 専門分野を見極め、論理的な思考力・判断力・表現力に磨きをかける発展演習（2年次）

(3) 専門性を磨き、応用力を養うための専門演習（3年次）

(4) 自らのテーマを専門的かつ総合的に追究し、学修の集大成として卒業論文を執筆する卒論演習（4年次）

(少人数教育)

・演習や各授業クラスを少人数で編成し、対話を通じた主体的で深い学びを推進するとともに、少人数教育ならではの濃密できめ細かな指導を行う。

(キャリア教育)

・各学年の演習科目では、各自の学修プランを基に、実社会において求められるスキルやコミュニケーション能力、社会人としての資質を育み、学生のキャリア形成を支援する。

(グローバル人材育成)

・グローバルな視点から国際社会や地域社会に貢献できる能力を養成するため、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学、海外インターンシップなど、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

(地域志向人材育成)

・地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、地域再生や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を開設する。

(評価)

・上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習及び発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。

・専門科目のプログラム科目群の1つで所定の単位数を修得した場合、当該プログラム領域を主専攻として専門に履修したことを認定する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

複雑化する国際社会及び地域社会においては、単一の学問分野のみならず、領域を超えた幅広いアプローチから課題の解決に取り組むことが必要です。

国際学部では、豊かな学識と幅広い視野に基づいて、平和で持続可能な国際社会や地域社会の実現に貢献できる人材の育成を教育理念としています。

そのため、国際学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

[求める人物像]

（関心・意欲）

国際社会や地域社会が抱える課題に関心を持ち、かつその解決に意欲を持つ人。

（知識・技能）

国際学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき現代社会についての基本的な知識・教養を持っている人。

また、外国語を含む言語の基本を修得し、基本的な運用能力を身に付けている人。

（思考力・判断力・表現力）

- ・ 社会の諸課題について、根拠に基づいて筋道を立てて考え、自分の意見をまとめることができる人。
- ・ 日本語と外国語を使って、自分の考えを分かりやすく表現できる人。

（主体性・協働性）

- ・ 何事にも主体性を持って行動し、海外留学やさまざまな活動に積極的に関わる意欲を持つ人。
- ・ 国際社会や地域社会における人間の営みに関する諸課題の解決に向けて、さまざまな意見を持つ人とも対話し、協働する姿勢を持つ人。

情報科学部

人材育成の目標

情報科学部は、以下の専門分野における基本的な知識・技能を基に、高度情報化社会を支え創造していくことができる人材を育成します。

〔情報工学分野〕

コンピュータやネットワークなどの情報基盤技術に関する分野

〔知能工学分野〕

人工知能を支える数理、知識情報処理、ソフトウェア技術に関する分野

〔システム工学分野〕

情報システム全体の調和と協調を図った創造的なシステム化技術に関する分野

〔医用情報科学分野〕

情報科学・自然科学・工学を基に、医用、生命、環境などへの活用技術に関する融合分野

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

情報科学部は、下記に挙げる3つの観点における能力を修得した者に対して卒業を認定し、次に示すように、修得した内容に応じて「学士（情報科学）」または「学士（情報工学）」を授与する。

- ・学士（情報科学）：情報科学における真理の探究に必要となる能力を主に修得した者
- ・学士（情報工学）：情報科学の利活用による課題解決に必要となる能力を主に修得した者

〔知識・技能〕

1. 多様な文化・価値観を尊ぶための人間、社会、自然に関する幅広い知識を身に付けている。(知識)
2. 情報科学または情報工学における技術者や研究者に求められる基本的な知識を身に付けている。(知識)
3. 情報科学または情報工学の課題に取り組み、結果や考察を理論的に記述することができる。(技能)
4. 国際的なコミュニケーションのための基礎的な語学力を身に付けている。(技能)

〔思考力・判断力・表現力〕

1. 情報科学または情報工学における知識・技能に基づき、論理的・合理的に思考・判断することができる。(思考力・判断力)
2. 技術者・研究者として自分の考えを分かりやすくプレゼンテーションすることができる。(表現力)

〔主体性・協働性〕

1. 情報科学の切り口から真理の探求または社会的課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる。(主体性)
2. 多様な価値観や新たな技術・知見を受け入れ、課題の解決に向けて協働して取り組むことができる。(協働性)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報科学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

（全学共通系科目）

- 幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

（情報科学系・情報工学系科目）

- 急速に発展する情報通信技術（ICT）に適応しながら次世代の情報化社会を創造する人材を育成するため、情報科学、情報工学、計算機科学、計算機工学とその応用を修得する次の2系統の科目を学部共通科目・専門基礎科目・専門科目のそれぞれに編成する。

- 情報科学系科目：高度情報化社会を支える技術の基盤となる自然科学とその応用に関する科目
- 情報工学系科目：高度情報化社会を実現するために必要な知識と基礎技術及びその応用に関する科目

（数学、プログラミング及び英語の重点的な教育）

- 情報科学または情報工学を学ぶ上で特に重要な基礎科目である数学、プログラミングは1～2年次に、英語は1～3年次に重点的な教育を行う。教育にあたっては、コンピュータ及び情報関連機器を用いた情報処理能力が身に付くように、継続的に情報機器の利用とそれによる学習が可能になるように配慮する。また、英語教育については、一般的な内容から専門分野における内容まで学習できるように科目を配置する。

（学部共通科目）

- 情報科学または情報工学の基礎的・普遍的な知識・技能を修得するため、学部共通科目を開設する。また、学部共通科目を履修した上で、学生一人ひとりの興味関心、適性に基づいて専門分野を適切に選択できる仕組みを導入する。

（専門基礎科目）

- 各学科の専門分野における基礎的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を修得するため、情報科学及び情報工学に関する専門基礎科目を主に2年次に開設する。

- 情報工学科：技術者や研究者に求められる情報工学の基本的な知識が身に付くように、コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション基盤の分野を横断した内容の科目を2・3年次に配置する。
- 知能工学科：知識情報処理、メディア情報処理、及びそれらに関連する数理を中心とした知能工学全般に共通して必要な能力を身に付けるための専門基礎科目を2年次に配置する。
- システム工学科：システム工学科では、情報システム全体の調和と協調を図った創造的なシステム化技術を学ぶ。それに必要となる数学・情報・工学に関する基礎的な科目を2年次に配置する。
- 医用情報科学科：医用情報科学または医用情報工学分野などの異分野融合領域を支える3つの普遍的学問領域（情報系科目、工学系科目、自然科学系科目）を専門基礎として開設する。

（専門科目）

- 各教科の専門分野における専門的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を修得するため、情報科学及び情報工学に関する専門科目をそれぞれ主に3年次に開設する。

- 情報工学科：3年次にコンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション基盤の各分野における専門性を高める専門科目を配置する。
- 知能工学科：知識情報処理、メディア情報処理、及びそれらに関連する数理を中心とした各知能工学分野の専門的な能力を身に付けるための専門科目を3年次に配置する。
- システム工学科：体系的に専門知識が身に付くようにシステム基礎、ロボット・人間共生、インタフェースデザインの各専門系列科目を3年次に配置する。
- 医用情報科学科：専門基礎科目を土台として、3つの普遍的学問領域（情報系科目、工学系科目、自然科学系科目）を医用、生命、環境などへ応用展開する医用情報科学系科目を開設する。

(実験科目、卒業研究)

- ・実験、演習、口頭発表などの体験的・総合的な学修を重視した以下の科目を開設する。
 - (1) 学部共通科目で習得した知識を具体的な問題に適用する能力を育成する実験科目
 - (2) 専門基礎科目・専門科目で習得した知識を具体化させ、思考力・洞察力を養い、実際的な問題・課題を解決する能力を育成する実験科目
 - (3) 研究に対する方法論、問題解決力を身に付け、研究の成果・意義・有用性を論理的にまとめ、発表・討論する能力を育成する以下の2種類のテーマでの卒業研究
 - ・情報科学・自然科学における真理の探究を目的としたテーマ
 - ・情報科学の利活用による課題解決を目的としたテーマ

(学生の多様化への対応)

- ・少人数教育、習熟度別のクラス編成、主体的・対話的で深い学びの推進などにより、知識や学力の多様化した学生に対して効果的な教育を行う。

(キャリア教育)

- ・技術者・研究者としての使命感・倫理観の養成、実社会において求められるスキルやコミュニケーション能力、社会人としての資質を育み、学生のキャリア形成を支援する科目を1～3年次に開設する。

(グローバル人材育成)

- ・技術者・研究者としてグローバルに活躍できる能力を養成するため、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学、海外での研究発表など、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

(地域志向人材育成)

- ・地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、情報科学を用いた地域振興や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を1～3年次に開設する。

(評価)

- ・上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習及び発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

科学技術の発展による高度情報化社会の到来に伴い、我が国を取り巻く産業・社会構造は年々複雑化し続けています。情報科学部では、このような複雑化する社会に対応するため、情報工学・情報科学分野の基礎知識・能力及び専門学識・技術を身に付け、高度情報化社会を支える人材の育成を教育理念としています。

そのため、情報科学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

[求める人物像]

(関心・意欲)

情報工学・情報科学に関心があり、自ら積極的に情報工学・情報科学を学修する意欲を持つとともに、学んだことを活用して国際社会や地域社会の発展に貢献したいという大志を抱いている人。

(知識・技能)

情報工学・情報科学を学ぶ上で土台となる高等学校等で修得すべき情報、数学、理科及び語学の知識・技能を有している人。

(思考力・判断力・表現力)

- ・物事を多面的にとらえ、論理的・合理的に思考して判断することができる人。
- ・自らの考えを分かりやすく説明するよう努力できる人。

(主体性・協働性)

- ・情報科学の切り口から真理の探究または社会的課題の解決に向けて主体的に取り組む熱意を持っている人。
- ・多様な価値観や新たな技術・知見を受け入れ、課題の解決に向けて協働して取り組む熱意を持っている人。

芸術学部

人材育成の目標

芸術学部は、創造性、先見性及び獨創性に富み、文化芸術の創造及び発展に貢献できる人材を育成することを教育理念とし、次のような人材を育成します。

1. 美術、デザイン・工芸に関する専門性の高い知識と技術を基に、創造性に富んだ創作と先見性、獨創性に富んだ表現・研究を発信できる人材。
2. 美術、デザイン・工芸に関する専門性の高い知識と技術を基に、地域や産業などさまざまな社会分野において、文化芸術の創造及び発展に貢献できる人材。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

芸術学部では、所定の期間在学中に、所定の単位を修得し、卒業制作を行い、審査に合格した学生に対して卒業を認定し、「学士（芸術）」の学位を授与する。なお、学生が卒業までに求められる3つの観点の能力を次に挙げる。

[知識・技能]

〈美術学科〉

以下のいずれか1つの専攻における専門的な知識・技能を有している。

（日本画専攻）

1. 日本画における伝統的な絵画表現の知識を身に付けている。(知識)
2. 日本画に関する獨創的な創作をする技能を身に付けている。(技能)

（油絵専攻）

1. 油絵における西洋の伝統的な絵画表現の知識を身に付けている。(知識)
2. 油絵に関する獨創的な創作をする技能を身に付けている。(技能)

（彫刻専攻）

1. 彫刻における伝統的な表現の知識を身に付けている。(知識)
2. 現代における獨創的な創作をする技能を身に付けている。(技能)

〈デザイン工芸学科〉

現代表現、視覚造形、映像メディア造形、立体造形、金属造形、染織造形、漆造形のいずれか1つの分野における専門的な知識・技能を有している。

1. デザイン工芸の各分野における歴史の変遷を理解している。(知識)
2. 社会や生活に関わる作品を創作するための造形技術を身に付けている。(技能)

[思考力・判断力・表現力]

1. 次代の文化芸術を創造するために、柔軟に想像したものを論理的に構想することができる。(思考力)
2. 創作過程における問題に対して、効果的な解決策を見出すことができる。(判断力)
3. 作品と言葉によって、創作に込めた自らの考えを的確に他者や社会に伝えることができる。(表現力)

[主体性・協働性]

1. 社会との関わりの中で、自らの感性を創作に生かそうとする姿勢を有している。(主体性)
2. 自らの創作を通じて、他者と協働する姿勢を有している。(協働性)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

芸術学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

（全学共通系科目）

- ・幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

（芸術学部のカリキュラム編成）

- ・学位授与の方針に掲げる基準を達成させるため、各学科・専攻に関わる基礎的な知識や技能を修得できる科目（専門基礎科目）と、専門知識や独創的な表現を修得できる科目（専門科目）を体系的に配置する。専門科目では、学年に応じて、実習・演習を段階的に配置し、創作の基礎力、応用力、展開力を養う教育を行う。

（専門基礎科目）

- ・主に1・2年次で、芸術の理論、歴史、技術や素材等に関する基礎的な知識・技能を身に付けるための科目を配置する。

（専門科目）

- ・専門的な知識・技能を段階的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付け、創作を通じて主体性、協働性を養うための実習・演習を主とした科目を配置する。3年次では国内外の古典芸術について事前調査・実地研究を行い、より専門的な知見を深めるための科目として、「古美術研究」を配置する。4年次では主体的に創作を行い、プレゼンテーション能力を含む表現力を修得するための科目として、「卒業制作」を配置する。

〔美術学科日本画専攻〕

- ・1・2年次では絵画表現の基礎となる観察力、描写力、技法材料への知識を身に付けるための科目を配置する。
- ・3年次には1・2年次で養った基礎力を各課題で反復応用し、独創性を涵養するための科目を配置する。
- ・4年次にはこれまでに修得した創作能力を活かし、幅広い知識とプレゼンテーション等を含む絵画の表現力と、他者との協働性を身に付けるための科目を配置する。

〔美術学科油絵専攻〕

- ・1・2年次では絵画表現の基礎として、観察力と描写力を主とした造形及び創作を行う知識・技能を身に付けるための科目を配置する。
- ・3年次には1・2年次の習作を通して養った能力を、自身の表現へ昇華させるための科目を配置する。また、他者と協働できるよう、プレゼンテーション能力を身に付けるための科目を配置する。
- ・4年次にはこれまでに修得した知識・技能・思考力・判断力・表現力を、独創性へと高めるための科目を配置する。

〔美術学科彫刻専攻〕

- ・1・2年次では、彫刻表現の基礎となる造形力及び彫刻制作の知識・技能を身に付けるための科目を配置する。
- ・3年次では1・2年次に養った造形力と知識・技能を用い、他者と協働しながら自身の考えを作品として表現する応用力を身に付けるための科目を配置する。
- ・4年次にはこれまでに修得した造形力及び知識・技能を深め、プレゼンテーション能力を含む創作者としての展開力を身に付けるための科目を配置する。

〔デザイン工芸学科〕

- ・1年次では、デザイン工芸で必要となる能力のうち、知識、技能及び思考力を中心としてその基礎を身に付けるための科目を配置する。
- ・2年次では、学生の指向性と7つの専門分野を対応させ、各分野における専門的な知識、技能及び思考力を身に付けるための科目を配置する。
- ・3年次では、2年次までに養った能力をさらに発展させ、創作に必要となる判断力や表現力、主体性を身に付けるための科目を配置する。また、グループ展の企画・運営を通じて、協働性を涵養するための科目を配置する。
- ・4年次では、これまでに修得した能力を統合的に応用し、作品を制作する表現力と、作品制作から展示までの過程を通じて主体性、協働性を高めるための科目を配置する。

(キャリア教育)

- ・ 芸術の専門的な知識・技能を生かして社会で活躍できる能力を養成するため、専門科目の中で学生のキャリア形成を支援する教育を行う。

(グローバル人材育成)

- ・ グローバルな視点に立った創作を行うことができるよう、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学など、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

(地域志向人材育成)

- ・ 地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、芸術による地域振興や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を配置する。

(評価)

- ・ 上記科目における知識、技能、表現力については、卒業制作などから総合的に評価を行い、専門教育課程を継続的に評価・検証する。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

国際化や情報化の急激な進展などにより社会の急速な変化や価値観の多様化が進む中、社会に豊かさをもたらす芸術の社会的役割はますますその重要性を高めています。

芸術学部では、創造性に富んだ創作を行うための専門的な知識と確かな技術を備え、文化芸術の創造及び発展に貢献できる先見性、創造性及び独創性に富んだ人材の育成を教育理念としています。

そのため、芸術学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

[求める人物像]

(関心・意欲)

芸術に関心があり、創作・表現に意欲を持ち、創作を通じて国際社会や地域社会の発展に貢献したいと考えている人。

(知識・技能)

高等学校等で習得すべき知識・技能を持ち、創作・表現を学ぶための基礎的な技術・感性を備えている人。

(思考力・判断力・表現力)

関心を持ったことを深く思考し、自らの考えを作品や言葉によって表現できる人。

(主体性・協働性)

創作、協働に対して積極性、主体性を持って取り組み、創作を通じて国際社会や地域と関わりたい人。

授業等

科目の種類

授業科目は講義、演習、実験、実習、実技などに区分され、それぞれ授業時間や単位数が異なります。また、科目の性質によって以下のように区分されますので、よく理解しておくようにしましょう。授業科目の詳細は教育課程表を参照してください。

必修科目

卒業のために必ず修得しなければならない科目です。

選択科目

複数の科目の中から、いくつかを選択することができる科目で、修得単位は卒業要件単位に加算されます。卒業要件をよく理解したうえで選択する必要があります。

自由科目

興味関心に応じて自由に選択することができる科目です。例えば、資格取得関係科目が該当します。卒業要件単位には数えられませんので注意してください。

単位

それぞれの授業科目には単位数が決められています。1単位を修得するためには、教室内での授業等の時間及び教室外での自主的な学修時間を合わせて45時間の学修を行う必要があります。なお、45時間のカウントについては、講義、演習、実験、実習、実技によって原則的に次のようになっています。

区 分	大学の授業での学修時間	授業時間外の自主的な学修時間	合 計
講 義	15時間	30時間	45時間
演 習	30時間	15時間	45時間
実 験 実 習 実 技	30～45時間	0～15時間	45時間

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30

注) 通常の授業は1～5時限で行われます。

開講区分

授業科目は次の開講区分により開講されます。

開講区分	説明（開講期間）
通年科目	年間を通して開講
前期科目	前期半年間に開講
第1ターム科目	前期半年間の前半に開講
第2ターム科目	前期半年間の後半に開講
後期科目	後期半年間に開講
第3ターム科目	後期半年間の前半に開講
第4ターム科目	後期半年間の後半に開講
集中講義科目※	特定の期間に集中して開講

※ 基本的には、前期又は後期に開講する授業科目ですが、諸般の理由により長期休業期間（夏季休業、学年末休業）も含め集中開講となるものです。

休講・補講・教室変更などの通知

休講・補講・教室変更などがある場合には、いちぼる（UNIPA）で通知します。授業担当教員から直接連絡がある場合もあるため大学付与のメールアドレスも毎日チェックしましょう。

こうした通知や連絡を見なかったために皆さんに不利益が生じて、大学は責任を負いません。毎日通知や連絡を見る習慣を身に付けてください。

自然災害や交通機関の運休時の授業

暴風雨などの自然災害やストライキ等によって公共交通機関の運行に支障が生じたり、そのおそれがある場合は、状況に応じて授業を休講とする場合があります。その取扱いは次のとおりとします。

1. 授業の実施が困難な場合の判断基準

- (1) 広島地方気象台から広島市安佐南区に暴風警報、暴風雪警報又は気象等に関する特別警報のいずれかが発表された場合
- (2) 暴風雨などの自然災害やストライキ等により、ア又はイが発生した場合
 - ア アストラムライン及び高速4号線を通過する広島電鉄バスの双方が全面的に運行停止
 - イ JR山陽本線において広島駅又は横川駅を含む区間が運行停止

2. 休講の取扱い

- (1) 授業開始後に上記1のいずれかの事由が発生した場合は、その後に開始される授業を休講にします。
- (2) 授業開始前に上記1のいずれかの事由が発生している場合は、発生した時間により次のとおり休講とします。
 - 午前7時の段階で上記1の事由が発生している場合は、午前中の授業は休講
 - 午前10時の段階で上記1の事由が継続している場合は、午後の授業もすべて休講

3. 避難情報の「警戒レベル」について

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、自治体から発令される避難情報の「警戒レベル」は、休講の判断基準となりませんが、本学・自分の居住地域・通学途上の地域に『避難指示』（警戒レベル4）以上が発令されている場合は、自分や家族の身の安全を最優先に考え、授業に出席するか欠席するかを判断してください。

欠席しても「欠席扱い」とはなりませんので、後日、担当教員に事情説明を行い、授業の指示を仰いでください。（定期試験の場合は、1週間以内に「追試験受験願」を事務局教務グループに提出してください。）

なお、本学は安佐南区の「緊急避難場所」に指定されています。

4. その他

上記1の判断基準に該当しない自然災害（地震など）及びそれに伴う公共交通機関の運行停止などが発生した場合の休講等についてはその都度お知らせします。

講義等を欠席する場合の手続き

病気やケガによる入院等、やむを得ない事情により講義等を欠席する場合は、その講義等の担当教員まで申し出てください。なお、感染症にかかった場合は以下のリンクから確認してください。

<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/content0069/>

担任教員

大学生活で困ったことがあった場合に相談ができる担任教員制度を設けています。各学部の担任教員は次のとおりです。

学部	担任教員	
国際学部	1年次 基礎演習担当教員 2年次 発展演習担当教員 3年次 専門演習担当教員 4年次 卒論演習担当教員	
情報科学部	1年次 2～3年次（講座配属まで） 4年次（講座配属後）	各クラスのチューター 各学科のチューター 各講座の教員
芸術学部	各学科・専攻の教員	

※詳細は、別途お知らせします。

障がいのある学生への支援

心身に障がいのある学生が他の学生と同じように授業を履修し、大学生活を送れるよう合理的な配慮を行っています。配慮を希望する学生は、心と身体の相談センターの保健室または、相談室に相談してください。

申請の対象になるのかわからない、どんな配慮を希望してよいかわからない、困っているけれどどこに相談したらよいかわからない等、何でも相談できますので、まずは、気軽にお問い合わせください。

詳細はこちらから <https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/category0006/c00032297/>

履修

はじめに

履修とは、授業科目を受講し単位を修得することを意味します。履修する授業科目は、以下の資料を参考にしながら決定してください。4年間で何を、どう学びたいかを考えながら計画的に履修しましょう。

◆ 教育課程表 (31～42、51～67、71～80ページ)

学位を取得する(卒業する)ために学部・学科ごとに提供されている授業科目を表にしたものです。入学年度により内容は異なります。

◆ カリキュラムマップ (Web公開)

ディプロマ・ポリシー (4～13ページ) と各授業科目との関連性を示した表です。各授業科目が卒業までに身に付けるべき能力のどの項目と関連するのかが分かります。

◆ カリキュラムツリー (シーケンス)

各授業科目の関連性や対象年次、学修の順序などを図示したものです。教育課程(カリキュラム)全体を把握し、4年間の履修計画を立てる手掛かりになります。

◆ 時間割表及び集中講義日程表 (いちぼる (UNIPA))

各授業科目の時間割表及び集中講義日程表はいちぼる (UNIPA) で公開されます。履修したい科目どうしの時間割が重複しているなど、時間割上の制約がある場合がありますので、先を見通して計画的に履修しましょう。

◆ シラバス (いちぼる (UNIPA))

各授業科目の到達目標や授業計画、内容、成績評価基準などを示したものです。その授業科目で何が学べるのか、何が身に付くのかを知ることができます。また、授業科目を履修する上でのルールが示されているので、十分に理解しておくようにしましょう。

履修登録

履修登録とは、履修しようとする授業科目を登録する手続きです。履修登録を行っていない授業科目は、必修科目であっても受講することはできないため単位を修得できません。登録内容の誤りなどにより進級や卒業ができなくなっても、自身の責任となります。以下の流れで手続きを行いますので、上述の資料や大学からの連絡事項に十分注意して、間違いのないように履修登録を行ってください。

(1) 履修登録期間

履修登録はいちぼる (UNIPA) から手続きを行います。指定の期間に正しく登録してください。なお、学年により登録できる科目が異なりますので注意してください。

1～3年次	4年次
学期ごとに履修科目を登録	前期に4年次分の履修科目を一括登録

(2) 履修確認期間

履修確認期間は(1)の期間に登録した履修科目を変更・追加・削除できる期間です。自身の確認不足による登録誤りは、履修確認期間終了後に修正することができません(後述の履修登録取消制度で取消しをする場合を除く)ので注意してください。

開講区分	2025年度日程	
	履修登録期間	履修確認期間
通年科目	4月2日(水)～ 4月9日(水) 4月11日(金)～ 4月14日(月) 17時	4月22日(火)～ 4月24日(木) 17時
前期科目 第1・2 ターム科目		
後期科目 第3・4 ターム科目	9月24日(水)～ 10月2日(木) 10月4日(土)～ 10月7日(火) 17時	10月16日(木)～ 10月20日(月) 17時

(3) 履修確定

(1)、(2)の期間を経て履修登録内容を確定します。前期は5月上旬、後期は10月下旬頃を予定しています。履修確定後、当該年度内に卒業が見込まれる場合には、卒業見込証明書が発行できるようになります。

なお、履修登録に関する相談、履修登録について分からないことや迷うことがあるときは、そのままにせず担任教員（16ページ）や事務局教務グループに相談しましょう。また、履修登録期間中には、学生が履修登録に関する相談に応じるブースを学内に設けています。教職課程を履修している学部生や大学院生など、経験豊富な先輩学生からアドバイスが受けられます。気軽に利用してください。

履修の禁止

次に掲げる授業科目は履修することができません。

- (1) 履修登録をしていない授業科目
- (2) 既に単位を修得した授業科目

履修登録取消制度

一度履修登録を確定させた授業科目について、GPA制度に基づき、履修登録を取り消すことができる制度です。授業の内容が自分の勉強したいものと違っていた、授業に対する知識が不足していることに気付いた、学修時間を確保するために履修科目数を減らしたい、といった場合には、履修登録取消期間内（授業科目の開講区分ごとに定める）に手続きを行きましょう。ただし、必修科目や取り消しができないとシラバスに明記された科目は、対象外です。

<履修登録取消期間>

開講区分	期間の考え方等	2025年度の日程
前期及び 通年科目 後期科目	授業開始から6週間が経過した後の土日祝を除く3日以内	5月20日(火)～22日(木) 17時(前期及び通年) 11月12日(水)～14日(金) 17時(後期)
ターム科目	授業開始から2週間が経過した後の土日祝を除く3日以内 (第1及び第2ターム科目は、前後期の履修確認期間に手続きが必要)	4月22日(火)～24日(木) 17時(第1ターム) 6月23日(月)～25日(水) 17時(第2ターム) 10月22日(水)～24日(金) 17時(第3ターム) 12月12日(金)～16日(火) 17時(第4ターム)
集中講義科目	当該科目の初回授業日の2週間前まで (以降の取消期間内での取消不可)	—

再履修

単位を修得できなかった授業科目について、次年度（又は次学期）に再履修することができます。ただし、再履修にあたっては、担当教員の承認が必要となる場合があります。

履修登録上限単位数

学修における予習・復習の時間を十分に確保し、一つひとつの授業科目の理解を深めるために、1学期に履修登録できる単位数の上限を24単位と定めています。ただし、自由科目及び資格取得関係科目、長期休業期間（夏季休業、学年末休業）に実施される集中講義の単位は、履修登録上限単位数に含めません。

※CALL英語集中、eラーニング英語を含む、前期・後期授業期間中に実施される集中講義の単位については、履修登録上限単位数に含めます。

<成績優秀者の特例>

情報科学部では、早期卒業適格認定者等、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた学生は、上限を超えて履修登録することができます。（早期卒業制度については、50ページをご覧ください。）

他学部・他学科履修等

所属する学部以外の学部開設されている全学共通系科目あるいは所属する学部・学科・専攻以外の専門教育科目の履修を希望する場合は、いちぼる（UNIPA）から手続きを行います。指定の期間に正しく手続きを行ってください。他学部・他学科履修により修得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は10単位です。

単位互換制度

単位互換とは、本学以外の大学が提供する授業科目を受講して修得した単位を、本学の単位として認定する仕組みです。単位互換制度により修得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は60単位です。

◆ 協定を結ぶ機関との単位互換

(1) 海外学術協定校への派遣留学

本学では海外の大学と協定・覚書を締結し、学生の交換留学を推進しています。派遣期間中に修得した単位は、学部での審査を経て、本学の単位に認定することができます。認定を希望する場合は、事務局教務グループにご相談ください。

また、協定校以外の大学に留学して単位を修得する場合でも認定できることがあります。希望する場合は、必ず留学前に事務局教務グループに確認してください。

<手続きに必要な書類>

- ・単位認定願（教務グループで配布）
- ・成績証明書（原本）
- ・認定を希望する授業科目のシラバス
- ・認定を希望する授業科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・成績評価基準が分かるもの

※いずれも外国語で書かれたものであれば、日本語訳を添付すること

(2) 教育ネットワーク中国

本学では他大学との連携や、教育内容の充実を図る目的で一般社団法人「教育ネットワーク中国」が実施する単位互換制度に加入しています。広島県内の大学を中心に23の大学等が参加しており、各大学が提供する授業科目を単位互換科目として受講することができます。修得した単位は一部を除き、原則自由科目として認定されますが、学部によって科目の取扱いが異なるので、Webで公開される募集要項等を確認するようにしましょう。

（一社）教育ネットワーク中国 <https://www.enica.jp/>

◆ 既修得単位等認定

本学に入学する前に大学又は短期大学で修得した単位は、学部での審査を経て、全学共通系科目又は外国語系科目として認定することができます。入学した日から1か月以内に申請が必要です。認定を希望する場合は、事務局教務グループに早めに相談してください。

<手続きに必要な書類>

- ・既修得単位等認定願（教務グループで配布）
- ・成績証明書（原本）
- ・認定を希望する授業科目のシラバス
- ・認定を希望する授業科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・成績評価基準が分かるもの

試験と成績

はじめに

授業科目の単位の認定は、原則として試験によって行われます。ただし、授業科目によっては担当教員の判断によって、レポートあるいはその他の課題を課すことにより試験に替える場合があります。いずれの場合も原則として出席回数が授業実施回数の3分の2以上なければ、評価の対象外となります。

定期試験と随時試験

- ◆ 試験は学期末等に期間を定めて実施する定期試験と、授業期間中に随時行う試験があります。
- ◆ 定期試験は、原則として出席回数が授業実施回数の3分の2以上なければ、当該授業科目の試験を受けることができません。

受験時の注意事項

- ◆ 定期試験の際は座席を指定する場合がありますので、早めに入室して自分の座席を確認してください。
- ◆ 受験の際は、担当教員の指示に従ってください。教員が指示したものの以外は机の上に置くことはできません。
- ◆ 受験の際は、机上番号札の手前に学生証を置いてください。
- ◆ 学生証を忘れた場合は、試験開始までに事務局教務グループで仮学生証の交付を受けてください。
- ◆ 原則として試験開始後20分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長は行いません。

不正行為

試験におけるカンニングや成績評価の対象となるレポート課題の剽窃行為（他人の文章等の盗用）などの不正行為を行った者には厳重に対処します。不正行為を行った場合は、原則としてその学期に履修した授業科目の全科目を不合格とする処分を行います。

追試験

定期試験を欠席した者に対しては特別な救済措置は行いません。ただし、以下に掲げる理由により、やむを得ず受験できなかった者は、受験できなかった理由を証明する書類を添え、追試験の申請を行うことができます。

- ◆ 本人の病気又は怪我
- ◆ 事故や自然災害等による公共交通機関の遅延
- ◆ 2親等以内の親族の葬儀への参列
- ◆ その他やむを得ない理由と副学長（教育・学生支援担当）が認めたもの

なお、追試験の実施日については原則として、欠席した試験日から3週間以内となっています。申請は欠席した試験日から1週間以内ですので追試験の実施を希望する場合は、速やかに事務局教務グループに相談してください。

成績評価

- ◆ 成績は、試験、実技、実習、レポートの成績及び授業等への参加状況を総合して評価します。(各授業科目の成績評価基準は、シラバスを参照してください。)
- ◆ 成績の表示は次のとおりとし、秀、優、良、可を合格とし、所定の単位が与えられます。

評価	GP	評点 (試験等の得点)	合 否	評価の説明
秀	4	90～100点	合 格	科目の到達目標を十分達成し、到達目標を超えた極めて優秀な成果をおさめている。
優	3	80～89点		科目の到達目標を十分達成している。
良	2	70～79点		科目の到達目標を達成している。
可	1	60～69点		科目の到達目標を最低限達成している。
不可	0	59～0点	不合格	科目の到達目標を達成していない。

※定期試験を受験していない場合、定期試験に代わるレポート課題を提出していない場合、又は出席回数が授業の3分の2に満たない場合は、「欠不」と表示します。

GPA (Grade Point Average) 制度

本学では、学生の皆さんの成績評価にあたって、GPA制度を導入しています。GPA制度は、Grade Point Average 制度の略称で、1単位あたりの平均GPを示すための国際的な成績評価制度です。

本学におけるGPA制度では、成績評価を受けた授業科目ごとの5段階評価を4から0までの点数 (GP : Grade Point) に置き換え、成績評価を受けた授業科目のGPと当該授業科目の単位数を掛けたその合計を、成績評価を受けた授業科目の単位数の合計で除して得られる値をGPAとしています。ただし、自由科目は算定に含めません。

具体的な計算式は以下の通りです。

$$GPA = \frac{\text{(成績評価を受けた授業科目のGP} \times \text{当該授業科目の単位数)の合計}}{\text{成績評価を受けた授業科目の単位数の合計}}$$

- ◆ GPAの対象とならない科目
 - ・自由科目、資格取得関係科目等
 - 卒業 (修了) 要件単位数に含めることができない授業科目
 - ・編入学等で単位認定を受けた科目
 - 5段階の成績評価によらない授業科目
- ◆ 学期GPAと通算GPA

GPAは、それぞれ成績評価を受けた学期ごとの「学期GPA」と入学時から当該学期までの「通算GPA」に区分されます。成績開示とともにいちぼる (UNIPA) の成績照会で確認できます。

過去に「不可」の成績評価を受けた科目であっても、その後に単位を修得すれば、修得した評価に応じたGPに基づいて (「不可」の評価を「上書き」して) 通算GPAを算出します。
- ◆ GPAの活用方法
 - ・留学時の成績基準
 - ・授業料減免や各種奨学金の対象者決定、特待生の選考等
 - ・配属学科の決定や、履修科目登録単位数の特例に係る成績優秀者の認定、早期卒業の判定等 [情報科学部のみ]

成績発表

成績は、前期科目については9月中旬に、後期科目については3月上旬に発表します。発表はいちぼる（UNIPA）の掲示等でお知らせしますので、「成績照会」から確認してください。成績一覧表はPDFでダウンロードすることができます。

成績評価に関する異議申立て

成績評価に関して疑問や質問がある場合は、まず、授業担当教員に説明を求めてください。授業担当教員による説明に納得がいかない場合は、成績評価に関する異議申立てを行うことができますので、事務局教務グループに相談してください。

ただし、異議申立ての期間は、当該授業科目の成績開示後1週間以内となっていますので、注意してください。

なお、異議申立てに対する回答は、原則として、申立書受理日から2週間以内に行いますが、異議申立てに対する回答に対しての再異議申立てはできません。

教育課程等

【全学部共通】

教育課程

本学の教育課程は、全学共通系科目、外国語系科目、専門教育科目及び資格取得関係科目の大きく4つの区分で構成されています。授業科目の種類及び単位数については、各学部の教育課程表を参照してください。

教育課程は入学年度ごとに定められており、卒業要件や履修条件は原則として卒業するまで変わることはありません。ただし、教育課程表は改正により変更されることがあります。変更となった授業科目や新規授業科目の取扱いなどは読替表*として毎年度Webで公開されます。必ず確認して適切に履修しましょう。

※特に受講予定の授業科目が変更になる場合に代替りの授業科目を履修することで、変更前の科目を履修したことにする措置を科目の読替（よみかえ）といい、授業科目の変更一覧は読替表と呼ばれます。

1 全学共通系科目

「総合共通科目」、「一般情報処理科目」及び「保健体育科目」で構成されています。「総合共通科目」は、以下の科目が開設されています。

- (1) 広島・地域志向科目
広島と周辺圏域の歴史や文化・産業などを学ぶとともに、地域課題へのアプローチを汎用的に学ぶ授業科目
- (2) 平和科目
被爆体験を若い世代に継承するとともに、平和と人権について多面的に学ぶことを目的とした授業科目
- (3) 共通科目A（人間と社会）
人間と文化、社会のかかわりを中心とする授業科目
- (4) 共通科目B（数理と自然）
人間と科学のかかわりを中心とする授業科目
- (5) 共通科目C（芸術）
創造と表現を中心とする授業科目
- (6) 初年次演習科目
大学教育において必要となる汎用的技能の基礎を学ぶ授業科目
- (7) キャリア形成・実践科目
自らの将来（就職、進学等）について考えるための授業科目

2 外国語系科目

「英語科目」と「英語以外の外国語系科目」（9言語）で構成されています。

3 専門教育科目

学部ごとに「専門基礎科目」と「専門科目」で構成されています。

4 資格取得関係科目

教員免許状の取得のための「教育職員免許状受領資格取得関係科目」と学芸員資格取得のための「学芸員資格取得関係科目」が開設されています。取得可能な資格等については、教員養成課程（81～102ページ）と学芸員養成課程（103～104ページ）を参照してください。

地域志向特定プログラム

「地域志向特定プログラム」は、地域に関して様々な視点から学びを深め、地域人材としての基礎をつくる「地域志向科目」で構成された教育プログラムです。【プログラム修了要件】を満たすことで、以下の能力の修得を目指します。さらに地域貢献に関するテーマで卒業論文・研究・制作の単位を修得した学生には、「ひろしま地域リーダー」の称号を授与します。

<修得を目指す能力>

- ① 地域の特性・課題を理解する能力
- ② 課題解決の方法を総合的視野から企画する能力
- ③ 自治体・企業・NPOなどとのネットワークを形成・調整する能力
- ④ ネットワークの中で自らの専門性を効果的に発揮する能力

【プログラム修了要件】

科目区分		必要単位数
A	広島・地域志向科目（地域課題演習を除く）	4単位以上
B	地域課題演習	いずれか 1単位以上
	専門演習（地域実践演習）【国際学部】	
	課題解決型演習【情報科学部】	
	地域実践演習【芸術学部】	
C	各学部専門教育科目において指定する「地域志向科目」（Bの授業科目を除く）	2単位以上
（上記最低単位数合計の不足）A、B、Cのいずれかから		1単位以上

※要件を満たす単位を修得した学生には、希望により「地域志向特定プログラム修了証明書」を交付します。

【地域志向特定プログラム授業科目】 ※教育課程表の備考欄に㊸マークのある科目

科目区分	地域志向特定プログラムの区分	授業科目名（単位数）	開設年次及び学期
全学共通系科目	広島・地域志向科目	A	ひろしま論(2)、地域再生論入門(2)、NPO論(2)
			広島の産業と技術(2)
		B	地域課題演習(1)
国際学部専門教育科目	演習	B	専門演習Ⅰ(1)(地域実践演習)
			専門演習Ⅱ(1)(地域実践演習)
	公共政策・NPOプログラム	C	非営利組織論Ⅰ(2)、ローカル・ガバナンス論(2)
			非営利組織論Ⅱ(2)、地域再生論(2)
多文化共生プログラム		フィールドワーク論(2)	
国際ビジネスプログラム		経営史(2)	
情報科学部専門教育科目	専門基礎・専門科目(4学科共通)	B	課題解決型演習(1)
		C	観光情報学(2)
			システム開発実践(2)
芸術学部専門教育科目	専門基礎科目	B	地域実践演習(1)
		C	アートマネージメント概論(2)
			造形応用研究Ⅰ(2)
		造形応用研究Ⅱ(2)	

以下は国際学部生の履修例です。

科目区分		地域志向特定プログラムの区分	授業科目名	合計単位数
広島・地域志向科目		A	ひろしま論、地域再生論入門	4
		B	地域課題演習	1
国際学部 専門教育科目	公共政策・NPOプログラム	C	非営利組織論Ⅰ，非営利組織論Ⅱ	4

【単位互換制度の活用について】

プログラム区分Aの修得要件については、教育ネットワーク中国の単位互換制度を活用し、他大学で開講される「単位互換科目」を履修して満たすことも可能です。

詳しくは事務局教務グループへお問い合わせください。

国際学部

【国際学部】

卒業要件

卒業するためには、原則4年以上在学し、次の卒業要件表に定める単位を修得しなければなりません。

この要件は、卒業するまで有効です。必ず自身の入学年度の要件を確認してください。

科目区分			卒業要件単位数		
全学共通系科目	総合共通科目	広島・地域志向科目	2単位以上		128単位
		平和科目	2単位以上		
		共通科目A（人間と社会）	4単位以上		
		共通科目B（数理と自然）	2単位以上		
		共通科目C（芸術）	2単位以上		
		初年次演習科目	1単位		
		キャリア形成・実践科目	1単位以上		
	一般情報処理科目	2単位			
	保健体育科目	2単位			
外国語系科目			12単位以上		
専門教育科目	専門基礎科目	ベーシック入門科目	2単位以上		
		ベーシック演習科目	3単位		
		英語スキルアップ科目	4単位		
	専門科目	5プログラム科目		74単位以上	
		アクティブ科目	国際交流	2単位以上	6単位以上
			インターンシップ		
			演習	4単位	
特別演習・特別講義		—			
卒業論文		4単位			
全学共通系科目、外国語系科目または専門教育科目の選択必修※から			5単位	5単位	

【卒業要件表の読み方】

- ・必要単位数が「～単位以上」と指定されている科目区分は、指定の単位数を超えて単位を修得した場合でも、卒業要件単位として数えられます。
 - ・「～単位」と指定されている科目区分は、指定の単位数までしか卒業要件単位としては数えられません。
- ※「選択必修」とは、決められた科目区分の中から、必要単位数分の科目を自身で選択して単位を修得することです。
上の表で「～単位以上」と指定されている科目区分は、選択必修科目で構成されています。

<よくある質問>

Q：卒業要件単位数を超えて単位を修得した場合、成績や単位は無効になりますか？

A：無効にはなりません。GPAにも換算され、成績証明書に表示されます。

履修基準

1. 全学共通系科目

必要単位数は卒業要件表のとおりです。必修科目は以下のとおりです。

【必修科目】

授業科目名 (単位数)		単位	開設年次	備考	合計単位
3学部合同基礎演習		1単位	1年		計5単位
情報活用基礎		2単位	1年		
体育実技Ⅰ(1)	健康科学(2)	2単位	1年	いずれかを選択	
体育実技Ⅱ(1)					

2. 外国語系科目

以下の基準に従い、卒業までに必修8単位、選択4単位の計12単位以上修得する必要があります。

必修 (8単位)	英語科目	「CALL英語集中Ⅰ」、「CALL英語集中Ⅱ」、「英語応用演習Ⅰ」、「英語応用演習Ⅱ」(各1単位)をすべて修得	4単位
	第二外国語科目	アラビア語、イタリア語、スペイン語、中国語、ドイツ語、ハングル、フランス語、ロシア語の8言語の中から同一言語を一つ選択し、ⅠからⅣ(各2単位)のうち2科目の単位を修得(日本語の授業は留学生のみ対象)	4単位
いずれか選択 (4単位)	選択1:英語科目	「CALL英語集中Ⅲ」、「CALL英語集中Ⅳ」、「英語応用演習Ⅲ」、「英語応用演習Ⅳ」(各1単位)をすべて修得	4単位
	選択2:第二外国語科目	上記、必修で修得した第二外国語科目の同一言語を選択し、ⅠからⅣ(各2単位)のうち残りの2科目の単位を修得(日本語の授業は留学生のみ対象) ※「選択2」の場合は、ⅠからⅣ(各2単位)まですべて修得することになります。	4単位

基準に当てはめると履修パターンは、英語を主として履修するパターンと、同一言語の第二外国語を主として履修するパターンのいずれかが2つです。なお履修パターンは、最低限の要件を満たすもので、これを踏まえたうえで、さらに外国語系科目を履修することもできます。

<英語を主とする履修するパターン>青:選択必修

年次	学期	履修する授業科目(カッコ内は単位数)			合計単位
1年次	前期	CALL英語集中Ⅰ(1)	英語応用演習Ⅰ(1)	第二外国語Ⅰ(2)	計12単位
	後期	CALL英語集中Ⅱ(1)	英語応用演習Ⅱ(1)	第二外国語Ⅱ(2)	
2年次	前期	CALL英語集中Ⅲ(1)	英語応用演習Ⅲ(1)		
	後期	CALL英語集中Ⅳ(1)	英語応用演習Ⅳ(1)		

<同一の第二外国語を主とする履修パターン>青:選択必修

年次	学期	履修する授業科目(カッコ内は単位数)			合計単位
1年次	前期	CALL英語集中Ⅰ(1)	英語応用演習Ⅰ(1)	第二外国語Ⅰ(2)	計12単位
	後期	CALL英語集中Ⅱ(1)	英語応用演習Ⅱ(1)	第二外国語Ⅱ(2)	
2年次	前期			第二外国語Ⅲ(2)	
	後期			第二外国語Ⅳ(2)	

※異なる言語の組み合わせで第二外国語をⅠからⅣまで8単位修得しても、同一言語でなければ基準を満たしませんので注意してください。

3. 専門教育科目

国際学部の専門教育科目は「専門基礎科目」と「専門科目」により構成されています。また、専門科目は、5プログラム科目、アクティブ科目、卒業論文、その他により構成されています。その履修基準は以下のとおりです。

(1) 専門基礎科目

必修9単位を含む9単位以上

必修：専門基礎科目のうち、データ分析入門以外

選択必修：データ分析入門

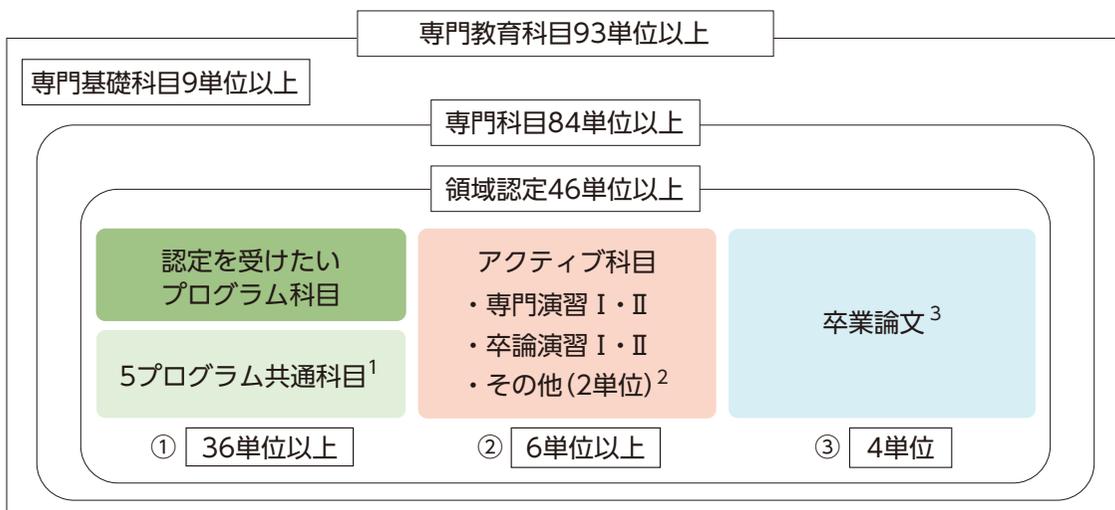
(2) 専門科目

必修8単位を含む84単位以上

必修：「専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ」（各1単位、計2単位以上）、「卒論演習Ⅰ、卒論演習Ⅱ」（各1単位、計2単位）、「卒業論文」（4単位）

(3) 「領域」の認定

5プログラム科目のうち、【①ひとつのプログラム科目（2つ以上のプログラム科目に共通する授業科目を含む）と5プログラム共通科目（地域研究等）から36単位以上】を履修し、かつ、【②アクティブ科目から6単位以上】と【③卒業論文4単位】の計46単位以上を履修して、当該プログラムの「領域」を専門に履修したことの認定を受けることが卒業要件です。



¹ ①のうち8単位まで加算できます。（超過した場合は①には加算されませんが、専門科目の累計に加算されます。）

² アクティブ科目のうち「国際交流」または「インターンシップ」から履修するか、2つのゼミを履修し、専門演習Ⅰ・Ⅱを各2単位履修することもできます。（超過したアクティブ科目は専門科目の累計に加算されます。）

³ 原則として、認定を受けたいプログラムに属する教員を指導教員とする必要があります。

※ 授業科目によっては、2つ以上のプログラムに共通する授業科目もあり、教育課程表の「備考欄」に下記の略号を付記しています。

略号：政治 公共 多文化 ビジネス 言語

卒業論文履修登録条件

4年次に進級し、卒業論文の履修登録を行うためには、以下のいずれかの条件を満たす必要があります。卒業論文は必修科目であり、履修登録ができないことは卒業延期となることを意味します。3年次までに計画的に単位を修得するようにしてください。

(1) 次に掲げる条件を満たす者

3年次末において卒業の要件となる128単位のうち、90単位以上を修得していること

(2) 教授会で認められた者

教育課程表

開設年次は、当該科目を履修するのに適切な年次を示しています。例えば開設年次が1・2年の科目は、1年次または2年次のいずれかで履修時期を決めることが推奨されているものです。こうした場合であっても、自身の履修計画により、3年次以降に当該科目を履修（下年次履修）することも可能です。

全学共通系科目

総合共通科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
広島・地域志向科目	ひろしま論		2	1・2年	前期	④
	広島の産業と技術		2	1・2年	後期	④
	地域再生論入門		2	1・2年	前期	④
	NPO論		2	1・2年	前期	④
	地域課題演習		1	1・2年	通年	④
平和科目	平和と人権A（ヒロシマと国際平和）		2	1・2年	前期	
	平和と人権B（現代世界と人権）		2	1・2年	後期	
	広島からの平和学：実践の方法		2	1・2年	前期	
	国際化時代の平和		2	1・2年	後期	
	「ヒロシマ」を考える		2	1・2年	後期	
共通科目A (人間と社会)	哲学		2	1・2年	後期	
	世界の宗教		2	1・2年	前期	
	心理学		2	1・2年	後期	
	歴史学		2	1・2年	前期	
	現代史		2	1・2年	前期	
	法学（日本国憲法）		2	1・2年	前期	
	政治学		2	1・2年	後期	
	経済学		2	1・2年	前期	
	社会学		2	1・2年	前期	
	文化人類学		2	1・2年	後期	
	自然人類学		2	1・2年	前期	
	経営学		2	1・2年	後期	
	心の健康・身体の健康		2	1・2年	前期	
	メディアと社会		2	1・2年	後期	
	自己の認識を深める		2	1・2年	前期	
人間関係とコミュニケーション		2	1・2年	後期		

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
共通科目B (数理と自然)	数学概論		2	1・2年	前期	
	物理学概論		2	1・2年	前期	
	基礎物理学		2	1・2年	前期	注1
	化学概論		2	1・2年	後期	
	基礎化学		2	1・2年	前期	注1
	生物学概論		2	1・2年	前期	
	基礎生物学		2	1・2年	後期	注1
	情報科学概論		2	1・2年	後期	
	物理・化学実験		2	1・2年	後期	注1
	地球環境論		2	1・2年	前期	
	情報社会論		2	1・2年	後期	
データサイエンス		2	1・2年	後期		
共通科目C (芸術)	デッサン概論		2	1・2年	前期	
	油絵入門		2	1・2年	第3ターム	
	日本画入門		2	1・2年	第3ターム	
	立体造形概論		2	1・2年	後期	
	プレゼンテーション概論		2	1・2年	前期	
	デザイン工芸概論		2	1・2年	後期	
	コンピュータとアート		2	2年	後期	
	創作と人間		2	1・2年	前期	
初年次演習科目	3学部合同基礎演習	1		1年	前期	
キャリア形成・ 実践科目	キャリアデザインⅰ		1	1・2年	第1ターム	
	キャリアデザインⅱ		1	1・2年	第4ターム	
	キャリアサポートベーシックA		1	2・3年	前期	
	キャリアサポートベーシックB		1	2・3年	後期	
	仕事体験演習		1	1・2年	通年	
	国際交流演習Ⅰ		1	全学年	通年	
	国際交流演習Ⅱ		1	全学年	通年	
	国際交流演習Ⅲ		1	全学年	通年	
国際交流演習Ⅳ		1	全学年	通年		

注1 国際学部生も履修可能だが、主として情報科学部生向けの講義内容となっている。

一般情報処理科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
一般情報処理科目	情報活用基礎	2		1年	前期	

保健体育科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
保健体育科目	健康科学		2	1年	前期	
	体育実技Ⅰ		1	1年	前期	注2
	体育実技Ⅱ		1	1年	後期	注2

注2 「体育実技Ⅰ」の種目は初回の授業で、「体育実技Ⅱ」の種目は「体育実技Ⅰ」の最終授業で、希望調査を行い決定する。再履修を希望する場合で、希望調査に回答できなかった場合には、個別に担当教員に相談すること。

外国語系科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
英語科目	CALL英語集中Ⅰ	1		1年	前期	
	CALL英語集中Ⅱ	1		1年	後期	
	CALL英語集中Ⅲ		1	2年	前期	
	CALL英語集中Ⅳ		1	2年	後期	
	英語応用演習Ⅰ	1		1年	前期	
	英語応用演習Ⅱ	1		1年	後期	
	英語応用演習Ⅲ		1	2年	前期	
	英語応用演習Ⅳ		1	2年	後期	
英語以外の外国語系科目	ドイツ語Ⅰ		2	1年	前期	
	ドイツ語Ⅱ		2	1年	後期	
	ドイツ語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	ドイツ語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	フランス語Ⅰ		2	1年	前期	
	フランス語Ⅱ		2	1年	後期	
	フランス語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	フランス語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	中国語Ⅰ		2	1年	前期	
	中国語Ⅱ		2	1年	後期	
	中国語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	中国語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	ハングルⅠ		2	1年	前期	
	ハングルⅡ		2	1年	後期	
	ハングルⅢ		2	1・2年	前期	注3
	ハングルⅣ		2	1・2年	後期	注3

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
英語以外の 外国語系科目	アラビア語Ⅰ		2	1年	前期	
	アラビア語Ⅱ		2	1年	後期	
	アラビア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	アラビア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	ロシア語Ⅰ		2	1年	前期	
	ロシア語Ⅱ		2	1年	後期	
	ロシア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	ロシア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	イタリア語Ⅰ		2	1年	前期	
	イタリア語Ⅱ		2	1年	後期	
	イタリア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	イタリア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	スペイン語Ⅰ		2	1年	前期	
	スペイン語Ⅱ		2	1年	後期	
	スペイン語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	スペイン語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	日本語Ⅰ		2	1年	前期	注4
	日本語Ⅱ		2	1年	後期	注4
日本語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3 注4	
日本語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3 注4	

注3 1年次が履修する場合は、科目担当教員の承認が必要である。

注4 外国人留学生対象の科目であり、日本人学生は履修することはできない。

専門教育科目

専門基礎科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
ベーシック入門科目	国際研究入門	2		1年	前期	
	データ分析入門		2	1年	後期	
ベーシック演習科目	基礎演習	1		1年	後期	
	発展演習Ⅰ	1		2年	前期	
	発展演習Ⅱ	1		2年	後期	
英語スキルアップ科目	英語スキルアップⅠ	2		2年	前期	
	英語スキルアップⅡ	2		2年	後期	

専門科目 (5プログラム科目)

国際政治・平和プログラム

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目 5プログラム科目	国際関係論		2	1年	前期	
	国際関係史入門		2	1年	後期	
	平和研究Ⅰ		2	1年	後期	
	国際安全保障論		2	2年	前期	
	比較政治学		2	2年	前期	
	国際協力論Ⅰ		2	2年	前期	公共
	国際協力論Ⅱ		2	2年	後期	公共
	国際社会論Ⅰ		2	2年	前期	多文化
	国際社会論Ⅱ		2	2年	後期	多文化
	平和研究Ⅱ		2	2年	前期	
	平和研究Ⅲ		2	2年	後期	
	国際関係史(中国)Ⅰ		2	2年	前期	
	国際関係史(中国)Ⅱ		2	2年	後期	
	国際法		2	2年	後期	
	国際政治理論		2	2年	後期	
	国際政治学		2	2年	後期	
	Learning IILs		2	2年	前期	
	Contemporary Political Issues		2	2年	後期	
	History of Japanese Politics and Diplomacy		2	2年	後期	
	Peace and Conflict Studies		2	2年	前期	
	日本史概論Ⅱ		2	2年	後期	多文化
	世界史概論Ⅱ		2	2年	後期	多文化
	国際人権法		2	3年	前期	
	民族国家論Ⅰ		2	3年	後期	
	民族国家論Ⅱ		2	3年	後期	
	開発政治論Ⅰ		2	3年	前期	公共
	開発政治論Ⅱ		2	3年	後期	公共
	紛争解決論Ⅰ		2	3年	前期	
	紛争解決論Ⅱ		2	3年	後期	
	国際機構論Ⅰ		2	3年	前期	
	国際機構論Ⅱ		2	3年	後期	
	国際関係史(日本)Ⅰ		2	3年	前期	
	国際関係史(日本)Ⅱ		2	3年	後期	
	国際関係史(朝鮮半島)Ⅰ		2	3年	前期	
	国際関係史(朝鮮半島)Ⅱ		2	3年	後期	
	国際関係史(アメリカ)Ⅰ		2	3年	前期	
国際関係史(アメリカ)Ⅱ		2	3年	後期		
国際関係史(ロシア)Ⅰ		2	3年	前期		
国際関係史(ロシア)Ⅱ		2	3年	後期		
日本社会と人権		2	3年	後期	多文化	

公共政策・NPOプログラム

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目 5プログラム科目	公共政策・NPO入門		1	1年	第3ターム	
	マクロ経済学Ⅰ		2	1年	後期	
	国際開発学		2	1年	後期	政治
	生涯学習概論		2	1年	後期	
	公共政策論		2	1年	後期	
	地理学概論		2	1年	後期	多文化
	ミクロ経済学Ⅰ		2	1年	後期	ビジネス
	ミクロ経済学Ⅱ		2	2年	前期	ビジネス
	基本統計学		2	2年	前期	
	開発社会学		2	2年	前期	多文化
	非営利組織論Ⅰ		2	2年	前期	ビジネス ^地
	非営利組織論Ⅱ		2	2年	後期	ビジネス ^地
	現代社会と法Ⅰ		2	2年	前期	
	現代社会と法Ⅱ		2	2年	後期	
	経済政策論Ⅰ		2	2年	前期	政治
	経済政策論Ⅱ		2	2年	後期	
	組織の経済学Ⅰ		2	2年	前期	ビジネス
	組織の経済学Ⅱ		2	2年	後期	ビジネス
	マクロ経済学Ⅱ		2	2年	後期	
	スポーツ開発論		2	2年	後期	ビジネス
	健康心理学		2	2年	後期	
	Comparative Education		2	2年	後期	
	地域再生論		2	2年	後期	ビジネス ^地
	環境社会学		2	2年	後期	多文化
	地方自治論		2	2年	前期	
	ローカル・ガバナンス論		2	2年	前期	ビジネス ^地
	比較法制度Ⅰ		2	3年	前期	
	比較法制度Ⅱ		2	3年	後期	
行政学		2	3年	後期		

多文化共生プログラム

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目 5プログラム科目	多文化共生入門		2	1年	前期	
	社会文化思想史Ⅰ		2	1年	後期	政治
	芸術文化論		2	2年	後期	言語
	フィールドワーク論		2	2年	前期	言語・公共 ^①
	ジェンダーとセクシュアリティ		2	2年	前期	
	社会文化思想史Ⅱ		2	2年	前期	
	マス&ソーシャルメディア論		2	2年	前期	政治
	日本史概論Ⅰ		2	2年	前期	政治
	世界史概論Ⅰ		2	2年	前期	政治
	比較文化論Ⅰ		2	2年	前期	
	比較文化論Ⅱ		2	2年	後期	
	文化交流史Ⅰ		2	2年	前期	
	文化交流史Ⅱ		2	2年	後期	
	共生の哲学Ⅰ		2	2年	前期	
	共生の哲学Ⅱ		2	2年	後期	
	Premodern Japanese Studies		1	2年	第2ターム	
	労働と社会		2	2年	後期	
	メディア・リテラシー		2	2年	後期	
	East Asian Cultures and Societies		2	2年	後期	
	Hiroshima and Atomic Bombing in Media		2	2年	前期	
	Future StudiesⅠ		2	2年	後期	
	エスニシティと宗教Ⅰ		2	2年	後期	
	エスニシティと宗教Ⅱ		2	3年	前期	
	比較民族学Ⅰ		2	3年	前期	
	比較民族学Ⅱ		2	3年	後期	
	Future StudiesⅡ		2	3年	前期	
	Exploring Japanese Society		2	3年	前期	

国際ビジネスプログラム

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目 5プログラム科目	国際ビジネス入門		2	1年	前期	
	会計学Ⅰ		2	1年	後期	
	International Commerce		2	1年	後期	
	会計学Ⅱ		2	2年	前期	
	経営戦略論		2	2年	前期	
	人的資源管理論		2	2年	前期	
	国際経営論Ⅰ		2	2年	前期	
	国際経営論Ⅱ		2	2年	後期	
	マーケティング論Ⅰ		2	2年	前期	公共
	マーケティング論Ⅱ		2	2年	後期	
	多国籍企業論Ⅰ		2	2年	前期	
	多国籍企業論Ⅱ		2	2年	後期	
	財務管理論Ⅰ		2	2年	前期	
	財務管理論Ⅱ		2	2年	後期	
	経営史		2	2年	第4ターム	地
	公会計論		2	2年	後期	公共
	国際会計論		2	2年	後期	
	経営組織論		2	2年	後期	
	International Business		2	2年	後期	
	Introduction to Management		2	2年	後期	
	金融論		2	2年	後期	公共
	国際貿易論		2	3年	前期	
	国際金融論Ⅰ		2	3年	前期	公共
	国際金融論Ⅱ		2	3年	後期	
	国際取引と法Ⅰ		2	3年	前期	公共
	国際取引と法Ⅱ		2	3年	後期	
	テクノロジーマネジメント		2	3年	後期	

言語・コミュニケーションプログラム

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考	
		必修	選択				
専門科目	5 プログラム 科目		1	1年	第3ターム		
			1	1年	第4ターム		
		言語・コミュニケーション研究入門A		1	1年	第3ターム	
		言語・コミュニケーション研究入門B		1	1年	第4ターム	
		フランスの文学と文化		2	2年	前期	多文化
		応用言語論Ⅰ		2	2年	前期	
		応用言語論Ⅱ		2	2年	後期	
		日本語学・日本語教育学Ⅰ		2	2年	前期	
		日本語学・日本語教育学Ⅱ		2	2年	後期	
		翻訳論Ⅰ		2	2年	前期	
		翻訳論Ⅱ		2	2年	後期	
		言語比較論Ⅰ		2	2年	前期	
		言語比較論Ⅱ		2	2年	後期	
		通訳技法論Ⅰ		2	2年	前期	
		通訳技法論Ⅱ		2	2年	後期	
		コミュニケーション技法論Ⅰ		2	2年	前期	
		コミュニケーション技法論Ⅱ		2	2年	後期	
		イギリスの文学と文化		2	2年	前期	多文化
		Cross-cultural Language and CommunicationⅠ		2	2年	前期	
		Cross-cultural Language and CommunicationⅡ		2	2年	後期	
		英文法論		2	3年	前期	
		英米文学概論Ⅰ		2	3年	前期	
		英米文学概論Ⅱ		2	3年	後期	
		時事英語		2	3年	前期	
		英語聴解法		2	3年	後期	
		英語学概論Ⅰ		2	3年	前期	
		英語学概論Ⅱ		2	3年	後期	
		英文構成法Ⅰ		2	3年	前期	
英文構成法Ⅱ		2	3年	後期			
Special Lecture in British and American LiteratureⅠ		2	3年	前期			
Special Lecture in British and American LiteratureⅡ		2	3年	後期			
Communication in EnglishⅠ		1	3年	前期			
Communication in EnglishⅡ		1	3年	後期			

5プログラム共通科目（地域研究等）

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目 5プログラム科目	地域研究入門		2	1年	前期	
	東北アジア政治論		2	1年	後期	
	ロシア研究		2	1年	後期	
	アフリカ研究		2	1年	後期	
	中東アラブ研究入門		2	1年	後期	
	中東アラブ研究		2	2年	前期	
	日本文化史Ⅰ		2	1年	後期	
	日本文化史Ⅱ		2	2年	前期	
	データ分析		2	2年	前期	
	比較地誌学		2	2年	前期	
	日本政治論		2	2年	前期	
	アフリカ社会と開発		2	2年	前期	
	ヨーロッパ政治論		2	2年	前期	
	American CultureⅠ		2	2年	前期	
	American CultureⅡ		2	2年	後期	
	イギリス文化論Ⅰ		2	2年	前期	
	イギリス文化論Ⅱ		2	2年	後期	
	フランス文化論		2	2年	後期	
	広島と世界		2	2年	後期	
	東南アジア研究		2	2年	後期	
	中国文化論		2	2年	後期	
	Modern Japanese Studies		2	2年	後期	
	国際日本学		2	3年	前期	
	東アジア研究		2	3年	前期	
	ラテンアメリカ研究Ⅰ		2	3年	前期	
	ラテンアメリカ研究Ⅱ		2	3年	後期	
Études de la société française		2	3年	前期		
Deutschland und Japan im Vergleich		2	3年	後期		

アクティブ科目等

科目区分		授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考	
			必修	選択				
専門科目	アクティブ科目	国際交流	国際研究特講Ⅰ		2	全学年	通年	
			国際研究特講Ⅱ		2	全学年	通年	
			海外短期英語留学		2	全学年	通年	
			海外短期フランス語留学		4	全学年	通年	
			海外短期ロシア語留学		2	全学年	通年	
			海外短期中国語留学		2	全学年	通年	
		HIROSHIMA and PEACE		2	2～4年	通年		
		インターンシップ	企業インターンシップ		2	2～4年	通年	
			学部派遣海外インターンシップ		2	2～4年	通年	
			公的機関インターンシップ		2	2～4年	通年	
	演習	専門演習Ⅰ	1		3年	通年	注5	
		専門演習Ⅱ	1		3年	通年	注5	
		卒論演習Ⅰ	1		4年	通年	注5	
		卒論演習Ⅱ	1		4年	通年	注5	
	特別演習・特別講義	特別演習Ⅰ		1	4年	通年	注6	
		特別演習Ⅱ		1	4年	通年	注6	
		特別演習Ⅲ		1	4年	通年	注6	
		特別演習Ⅳ		1	4年	通年	注6	
		特別講義Ⅰ		2	4年	通年	注6	
		特別講義Ⅱ		2	4年	通年	注6	
卒業論文	卒業論文	4		4年	通年			

注5 演習について

「専門演習Ⅰ」及び「卒論演習Ⅰ」は前期履修、「専門演習Ⅱ」及び「卒論演習Ⅱ」は後期履修を原則とする。事前に指導教員の許可があった場合には、開設学期を変更することができる。

注6 特別演習・特別講義について

事前に指導教員の許可があった場合に履修が認められる。また、一定の条件のもとに「アクティブ科目」への加算が認められる。

国際学部 全専門科目 配置図

		1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
国際学部 5プログラム科目 専門科目	国際政治・平和	<前期> 国際関係論 <後期> 国際関係史入門 平和研究Ⅰ	国際安全保障論 国際協力論Ⅰ・Ⅱ〔公共〕 平和研究Ⅱ・Ⅲ 国際法 国際政治学 Peace and Conflict Studies Learning IIIs Contemporary Political Issues History of Japanese Politics and Diplomacy	比較政治学 国際社会論Ⅰ・Ⅱ〔多文化〕 国際関係史（中国）Ⅰ・Ⅱ 国際政治理論 日本史概論Ⅱ〔多文化〕 世界史概論Ⅲ〔多文化〕	国際人権法 民族国家論Ⅰ・Ⅱ 開発政治論Ⅰ・Ⅱ〔公共〕 紛争解決論Ⅰ・Ⅱ 国際機構論Ⅰ・Ⅱ 国際関係史（日本）Ⅰ・Ⅱ 国際関係史（朝鮮半島）Ⅰ・Ⅱ 国際関係史（アメリカ）Ⅰ・Ⅱ 国際関係史（ロシア）Ⅰ・Ⅱ 日本社会と人権〔多文化〕	卒業論文 (発表会)
	公共政策・NPO	<後期> 公共政策・NPO入門 ミクロ経済学Ⅰ〔ビジネス〕 マクロ経済学Ⅰ 国際開発学〔政治〕 生涯学習概論 公共政策論 地理学概論	ミクロ経済学Ⅱ〔ビジネス〕 非営利組織論Ⅰ・Ⅱ 現代社会と法Ⅰ・Ⅱ 組織の経済学Ⅰ・Ⅱ〔ビジネス〕 健康心理学 地域再生論〔ビジネス〕 地方自治論 ローカル・ガバナンス論 Comparative Education	基本統計学 開発社会学 経済政策論Ⅰ〔政治〕・Ⅱ マクロ経済学Ⅱ スポーツ開発論〔ビジネス〕 環境社会学	比較法制度Ⅰ・Ⅱ 行政学	卒業論文 (発表会)
	多文化共生	<前期> 多文化共生入門 <後期> 社会文化思想史Ⅰ〔政治〕	芸術文化論〔言語〕 ジェンダーとセクシャリティ 社会文化思想史Ⅱ 比較文化論Ⅰ・Ⅱ 文化交流史Ⅰ・Ⅱ フィールドワーク論〔言語・公共〕 マス&ソーシャルメディア論〔政治〕 East Asian Culture and Societies Hiroshima and Atomic Bombing in Media Future Studies I Pre-modern Japanese Studies	メディア・リテラシー エスニシティと宗教Ⅰ 共生の哲学Ⅰ・Ⅱ 労働と社会 日本史概論Ⅰ〔政治〕 世界史概論Ⅰ〔政治〕	エスニシティと宗教Ⅱ 比較民族学Ⅰ・Ⅱ Future Studies II Exploring Japanese Society	卒業論文 (発表会)
	国際ビジネス	<前期> 国際ビジネス入門 <後期> 会計学Ⅰ International Commerce	会計学Ⅱ 人的資源管理論 マーケティング論Ⅱ〔公共〕・Ⅲ 多国籍企業論Ⅰ・Ⅱ 経営史 国際会計論 International Business Introduction to Management	経営戦略論 国際経営論Ⅰ・Ⅱ 財務管理論Ⅰ・Ⅱ 公会計論〔公共〕 経営組織論 金融論	国際貿易論 国際金融論Ⅰ〔公共〕・Ⅱ 国際取引と法Ⅰ〔公共〕・Ⅱ テクノロジーマネジメント	卒業論文 (発表会)
	言語・コミュニケーション	<後期> 言語・コミュニケーション 研究入門A 言語・コミュニケーション 研究入門B	応用言語論Ⅰ・Ⅱ 翻訳論Ⅰ・Ⅱ 通訳技法論Ⅰ・Ⅱ フランスの文学と文化〔多文化〕 日本語学・日本語教育学Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション技法論Ⅰ・Ⅱ イギリスの文学と文化 Cross-Cultural Language and CommunicationⅠ〔多文化〕・Ⅱ	言語比較論Ⅰ・Ⅱ	英文法論 時事英語 英語学概論Ⅰ・Ⅱ Special Lecture in British and American LiteratureⅠ・Ⅱ Communication in EnglishⅠ・Ⅱ	卒業論文 (発表会)
5プログラム共通科目(地域研究等)	<前期> 地域研究入門 <後期> 日本文化史Ⅰ 東北アジア政治論 ロシア研究 中東アラブ研究入門 アフリカ研究	データ分析 日本政治論 東南アジア研究 イギリス文化論Ⅰ・Ⅱ Modern Japanese Studies American CultureⅠ・Ⅱ	中東アラブ研究 日本文化史Ⅱ 中国文化論 ヨーロッパ政治論 フランス文化論 アフリカ社会と開発 広島と世界 比較地誌学	国際日本学 東アジア研究 ラテンアメリカ研究Ⅰ・Ⅱ Études de la société française Deutschland und Japan im Vergleich		
アクティビティ科目	アクティブ科目（国際交流） 国際研究特訓Ⅰ・Ⅱ、海外短期英語留学、海外短期フランス語留学、海外短期中国語留学、海外短期ロシア語留学、HIROSHIMA and PEACE アクティブ科目（インターンシップ） 企業インターンシップ 公的機関インターンシップ 学部派遣海外インターンシップ					
アクティビティ科目	アクティブ科目（演習）					
<後期> 基礎演習	発展演習Ⅰ	発展演習Ⅱ	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	卒論演習Ⅰ・Ⅱ	
<前期> 国際研究入門 <後期> データ分析入門 専門基礎科目（ベーシック入門科目、ベーシック演習科目、英語スキルアップ科目）	英語スキルアップⅠ・Ⅱ		※青色＝外国語系科目、外国語による専門科目、国際交流系科目			

情報科学部

【情報科学部】

卒業要件

卒業するためには、原則4年以上在学し、次の卒業要件表に定める単位を修得しなければなりません。
この要件は、卒業するまで有効です。必ず自身の入学年度の要件を確認してください。

科目区分		卒業要件単位数			
全学共通系科目	総合共通科目	広島・地域志向科目	2単位以上	33単位	128単位
		平和科目	2単位以上		
		共通科目A（人間と社会）	4単位以上		
		共通科目B（数理と自然）	4単位以上		
		共通科目C（芸術）	2単位以上		
		初年次演習科目	1単位		
		キャリア形成・実践科目	1単位以上		
	一般情報処理科目	2単位			
	保健体育科目	2単位			
外国語系科目		8単位以上			
全学共通系科目または外国語系科目の選択必修*から		5単位			
専門教育科目	専門基礎科目	95単位	95単位		
	専門科目				

【卒業要件表の読み方】

- ・必要単位数が「～単位以上」と指定されている科目区分は、指定の単位数を超えて単位を修得した場合でも、卒業要件単位として数えられます。
 - ・「～単位」と指定されている科目区分は、指定の単位数までしか卒業要件単位としては数えられません。
- ※「選択必修」とは、決められた科目区分の中から、必要単位数分の科目を自身で選択して単位を修得することです。
上の表で「～単位以上」と指定されている科目区分は、選択必修科目で構成されています。

<よくある質問>

- Q：卒業要件単位数を超えて単位を修得した場合、成績や単位は無効になりますか？
A：無効にはなりません。GPAにも換算され、成績証明書に表示されます。

履修基準

1. 全学共通系科目

必要単位数は卒業要件表のとおりです。必修科目は以下のとおりです。

【必修科目】

授業科目名 (単位数)		単位	開設年次	備考	合計単位
3学部合同基礎演習		1単位	1年		計5単位
情報活用基礎		2単位	1年		
体育実技Ⅰ(1)	健康科学(2)	2単位	1年	いずれかを選択	
体育実技Ⅱ(1)					

2. 外国語系科目

卒業までに8単位以上修得する必要があります。この8単位のうち、英語科目である「eラーニング英語Ⅰ」、「eラーニング英語Ⅱ」、「eラーニング英語Ⅲ」、「eラーニング英語Ⅳ」、「英語応用演習Ⅰ」、「英語応用演習Ⅱ」、「英語応用演習Ⅲ」、「英語応用演習Ⅳ」(各1単位)の計8単位は必修です。つまり、外国語系科目の8単位は必修の英語科目のみで充たすことができます。英語のみを集中的に勉強するのか、あるいは第二外国語も履修して言語の幅を広げるのか、各自の進路も考慮しながら、よく考えて決めてください。

・外国語系科目履修パターン① (必修英語科目のみを履修するパターン)

年次	学期	履修する授業科目 (カッコ内は単位数)		合計単位
1年次	前期	eラーニング英語Ⅰ(1)	英語応用演習Ⅰ(1)	計8単位
	後期	eラーニング英語Ⅱ(1)	英語応用演習Ⅱ(1)	
2年次	前期	eラーニング英語Ⅲ(1)	英語応用演習Ⅲ(1)	
	後期	eラーニング英語Ⅳ(1)	英語応用演習Ⅳ(1)	

・外国語系科目履修パターン② (第二外国語も履修するパターン)

※このパターンで履修した場合、修得した14単位のうち13単位までが卒業要件として算入されます。

年次	学期	履修する授業科目 (カッコ内は単位数)			合計単位
1年次	前期	eラーニング英語Ⅰ(1)	英語応用演習Ⅰ(1)	第二外国語Ⅰ(2)	計14単位
	後期	eラーニング英語Ⅱ(1)	英語応用演習Ⅱ(1)	第二外国語Ⅱ(2)	
2年次	前期	eラーニング英語Ⅲ(1)	英語応用演習Ⅲ(1)	第二外国語Ⅲ(2)	
	後期	eラーニング英語Ⅳ(1)	英語応用演習Ⅳ(1)		

3. 専門教育科目

情報科学部の専門教育科目は全学科対象の「専門基礎科目」と学科ごとの「専門科目」により構成されています。情報科学部では、2年次前期から学科に配属されますが、2年次前期までは主に「専門基礎科目」を履修し、2年次後期から学科ごとの「専門科目」を履修することになります。

各学科における専門教育科目の履修基準は以下のとおりです。

- (1) 情報工学科
必修45単位を含め95単位
- (2) 知能工学科
必修48単位を含め95単位
- (3) システム工学科
必修45単位を含め95単位
- (4) 医用情報科学科
必修45単位を含め95単位

なお、卒業研究等の履修にあたっては、以下の履修要件があります。

情報工学科	知能工学科	システム工学科	医用情報科学科
①卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの履修期間はそれぞれ半期 ②卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは前後期いずれでも履修可能だが、卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰの単位修得者が履修可能 ③プレゼンテーション技法(3年次に履修しておくこと)、技術文書作成法の履修期間はそれぞれ半期 ④原則、技術文書作成法は卒業研究Ⅱと同じ履修期に履修すること	①卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの履修期間はそれぞれ半期 ②卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは前後期いずれでも履修可能だが、卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰの単位修得者が履修可能 ③プレゼンテーション技法、技術英語演習Ⅱ、技術文書作成法の履修期間はそれぞれ半期 ④原則、プレゼンテーション技法と技術英語演習Ⅱは卒業研究Ⅰ、技術文書作成法は卒業研究Ⅱと同じ履修期に履修すること	①卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの履修期間はそれぞれ半期 ②卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは前後期いずれでも履修可能だが、卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰの単位修得者が履修可能 ③プレゼンテーション技法、技術文書作成法の履修期間はそれぞれ半期 ④原則、プレゼンテーション技法は卒業研究Ⅰ、技術文書作成法は卒業研究Ⅱと同じ履修期に履修すること	

学科配属

情報科学部の学生は、1年次後期終了時に、2年次進級が認められて(原則として前期を1期及び後期を1期、各期を途中休学することなく、且つ卒業要件となる128単位のうち、20単位以上修得していること。) いれば、本人の希望と成績に基づき、「情報工学科」、「知能工学科」、「システム工学科」及び「医用情報科学科」のいずれかの学科に配属されます。

進級要件

情報科学部においては、2年次以後の年次ごとに進級するための条件があります。

この条件を満たさないと、次の学年へ進級できなくなり、卒業延期となりますので、年次ごとに計画的に単位を修得し、4年間で卒業できるようにしましょう。

対 象	情報工学科	知能工学科	システム工学科	医用情報科学科
2年次	次の①及び②、または③に該当する者 ①1年次に休学をしていない ②1年次末に卒業要件となる128単位のうち、20単位以上を修得している ③教授会で認められた者			
3年次	次のいずれかに該当する者 ①2年次末において、卒業要件の128単位のうち、以下の科目の全単位を含む66単位以上を修得している ②学科の推薦を受け、教授会で認められた者 【修得必須科目】 情報科学基礎実験a(1) 情報科学基礎実験b(1) 情報科学基礎実験c(1) プログラミングⅠ演習(1) プログラミングⅡ演習(1) eラーニング英語Ⅰ(1) eラーニング英語Ⅱ(1)			
4年次 (卒業研究 着手要件)	【修得必須科目】 情報工学実験Ⅰ(1.5) 情報工学実験Ⅱ(1.5) 情報工学実験Ⅲ(1.5) 情報工学実験Ⅳ(1.5) プレゼンテーション技法(1) 技術英語演習(1) 解析学ⅠA演習(0.5) 解析学ⅠB演習(0.5) 線形代数学ⅠA演習(0.5) 線形代数学ⅠB演習(0.5) eラーニング英語Ⅲ(1) eラーニング英語Ⅳ(1)	【修得必須科目】 知能工学実験Ⅰ(1.5) 知能工学実験Ⅱ(1.5) 知能工学実験Ⅲ(1.5) 知能工学実験Ⅳ(1.5) 技術英語演習Ⅰ(1) 解析学ⅠA演習(0.5) 解析学ⅠB演習(0.5) 線形代数学ⅠA演習(0.5) 線形代数学ⅠB演習(0.5) eラーニング英語Ⅲ(1) eラーニング英語Ⅳ(1)	【修得必須科目】 システム工学実験Ⅰ(1.5) システム工学実験Ⅱ(1.5) システム工学実験Ⅲ(1.5) システム工学実験Ⅳ(1.5) 外書講読演習(1) 解析学ⅠA演習(0.5) 解析学ⅠB演習(0.5) 線形代数学ⅠA演習(0.5) 線形代数学ⅠB演習(0.5) eラーニング英語Ⅲ(1) eラーニング英語Ⅳ(1)	【修得必須科目】 医用情報科学実験Ⅰ(1.5) 医用情報科学実験Ⅱ(1.5) 医用情報科学実験Ⅲ(1.5) 医用情報科学実験Ⅳ(1.5) 技術英語実践演習Ⅰ(0.5) 技術英語実践演習Ⅱ(0.5) 解析学ⅠA演習(0.5) 解析学ⅠB演習(0.5) 線形代数学ⅠA演習(0.5) 線形代数学ⅠB演習(0.5) eラーニング英語Ⅲ(1) eラーニング英語Ⅳ(1)

イノベーション人材育成プログラム

◆ 概要

イノベーション人材育成プログラムは、プログラミングや数学の得意分野を伸ばす少人数選抜の教育プログラムです。プログラムを通じて、情報社会の課題に目を向け、問題を発見し、その解決策を考える力を身につけることができます。

◆ コース

次の2つの学習コースで得意分野を伸ばします。条件を満たせば、いずれか1コースを選択することも、両方を選択することもできます。

【革新的ICT実践特別コース】

プログラミングが得意な人向けのコース。モノづくりを極めたスーパーシステムエンジニアに必要な力を伸ばします。

【革新的情報科学特別コース】

数学が得意な人向けのコース。科学的研究能力をもつIT技術者に必要な力を伸ばします。

◆ 申請対象

指定された次の科目で優秀な成績を修めた学生がチャレンジできます。受入人数は40名程度であるため、申請者が多い場合、情報科学部教務委員会において選抜によりプログラム受講者を決定します。

※総合型選抜入学者は優先受講が可能です。

※2年次前期の申請は、原則として中断者・辞退者が発生した場合の欠員分のみ募集します。

コース	申請時期	1年次後期（10月上旬）に申請	2年次前期（4月上旬）に申請
革新的ICT実践特別コース		プログラミングⅠ	プログラミングⅡ
革新的情報科学特別コース		線形代数学ⅠA・ⅠB	線形代数学ⅡA・ⅡB

◆ プログラム修了要件

科目群	必要単位数
プログラム共通科目群	6単位
プログラミング系科目群 (革新的ICT実践特別コース受講者対象)	14単位以上
数学系科目群 (革新的情報科学特別コース受講者対象)	
所属学科の指定の専門科目群	6単位以上
実践的演習等の科目群	1単位
27単位以上	

※要件を満たす単位を修得した学生には、希望により「イノベーション人材育成プログラム修了証明書」を交付します。

◆ 対象科目（括弧内の数字は単位数。※はプログラム参加者のみ履修可能な科目を表す。）

科目群	専門基礎科目	専門科目			
		情報工学科	知能工学科	システム工学科	医用情報科学科
プログラム 共通科目群	実社会指向基礎数学 (2・必) 実践的AI技術(2)* 批判的創造的思考法(2)*				
プログラミング系 科目群	プログラミングⅠ(2・必) プログラミングⅠ演習 (1・必) プログラミングⅡ(2・必) プログラミングⅡ演習 (1・必) データ構造とアルゴリズムⅠ(2) データ構造とアルゴリズムⅡ(2)	情報システム開発(2) 高度プログラミングA(1)* 高度プログラミングB(1)* 高度プログラミングC(1)* 高度プログラミングD(1)*	情報システム開発(2) 高度プログラミングA(1)* 高度プログラミングB(1)* 高度プログラミングC(1)* 高度プログラミングD(1)*	情報システム開発(2) 高度プログラミングA(1)* 高度プログラミングB(1)* 高度プログラミングC(1)* 高度プログラミングD(1)*	情報システム開発(2) 高度プログラミングA(1)* 高度プログラミングB(1)* 高度プログラミングC(1)* 高度プログラミングD(1)*
数学系科目群	解析学ⅠA(1・必) 解析学ⅠB(1・必) 解析学ⅠA演習(0.5・必) 解析学ⅠB演習(0.5・必) 解析学Ⅱ(2) 線形代数学ⅠA(1・必) 線形代数学ⅠB(1・必) 線形代数学ⅠA演習(0.5・必) 線形代数学ⅠB演習(0.5・必) 線形代数学ⅡA(1・必) 線形代数学ⅡB(1・必) モデル化とシミュレーション(2)*	医用データサイエンス(2)	医用データサイエンス(2)	医用データサイエンス(2)	医用データサイエンス(2)
所属学科の 指定の 専門科目群		情報セキュリティ応用(2) コンピュータシステム(2) リコンフィギャラブル コンピューティング(2) 設計最適化手法(2) ネットワーク設計(2) ネットワークソフト ウェア(2) ワイヤレスネットワーク(2) ネットワーク基盤技術 (2) センサシステム(2) トラフィック分析(2)	グラフ理論(2) 人工知能(2) 感性情報処理(2) 機械学習(2) データマイニング(2) 情報検索(2) 画像情報処理(2) 自然言語処理(2) 情報理論(2) パターン認識(2)	確率過程論(2) 数値計算法(2) メカトロニクス(2) 画像情報処理(2) 制御工学Ⅰ(2) ロボティクスⅠ(2) デジタル無線通信(2) オペレーティングシス テム(2) パターン認識(2) ヒューマンインタ フェースⅠ(2)	バイオインフォマティ クスⅠ(1) バイオインフォマティ クスⅡ(1) 量子力学(1) 統計力学(1) 医用データサイエンス(2)* デジタル信号処理(2) 制御工学(2) 電気電子計測(2) 生体情報工学(2) 医用情報システム開発(2) 医用情報通信工学(2) 医科学概論Ⅰ(1) 医科学概論Ⅱ(1)
実践的演習等 の科目群	課題解決型演習(1) システム開発実践(2)				

◆ プログラムでの学びを応援する制度

プログラム受講者は、通常の情報科学部のカリキュラムに加えて、より実践的・発展的な学びに取り組むことができます。こうしたプログラムでの学びを後押しする制度として、希望する学科への優先的な配属（1年次後期）や、講座への早期配属（3年次前期）を受けることができます。

また、プログラムを修了し、優秀な成績を修めた場合は、3年次修了後飛び級による大学院への早期進学もできます。

履修上限解除制度

「履修上限解除制度」は、成績優秀者が半期に登録できる科目の単位数の上限を超えて履修でき、上位学年開設科目を履修することができる制度です。対象者は、1年次末時点で、卒業要件単位のうち32単位を修得しており、優秀な成績を修めている学生です。成績の基準にはGPAが用いられます。対象者へは年度末頃に教務グループから申請の案内があります。

早期卒業制度

「早期卒業制度」は、成績優秀者が4年の教育課程を3年または3年半で卒業できる制度です。対象者は、2年次末または3年次前期末時点で卒業要件単位のうち、90単位以上を修得しており、優秀な成績を修めている学生です。成績の基準にはGPAが用いられます。対象者には、教務グループから2年次末または3年次前期末に申請の案内があります。なお、先に述べてある履修上限解除制度を利用しておくと本制度の活用がしやすくなります。

以下は早期卒業希望者向けの推奨スケジュールです。これらの制度の詳細については、学部ガイダンスなどで説明します。

スケジュール（あくまで一例です）

1年次3月	履修上限解除申請
2年次4月（前期履修登録～）	履修上限解除
2年次3月（または3年次9月）	早期卒業適格要件認定
3年次3月（または4年次9月）	早期卒業

教育課程表

開設年次は、当該科目を履修するのに適切な年次を示しています。例えば開設年次が1・2年の科目は、1年次または2年次のいずれかで履修時期を決めることが推奨されているものです。こうした場合であっても、自身の履修計画により、3年次以降に当該科目を履修（下年次履修）することも可能です。ただし、3年次と4年次の進級要件に留意してください。

全学共通系科目

総合共通科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
広島・地域志向科目	ひろしま論		2	1・2年	前期	④
	広島の産業と技術		2	1・2年	後期	④
	地域再生論入門		2	1・2年	前期	④
	NPO論		2	1・2年	前期	④
	地域課題演習		1	1・2年	通年	④
平和科目	平和と人権A（ヒロシマと国際平和）		2	1・2年	前期	
	平和と人権B（現代世界と人権）		2	1・2年	後期	
	広島からの平和学：実践の方法		2	1・2年	前期	
	国際化時代の平和		2	1・2年	後期	
	「ヒロシマ」を考える		2	1・2年	後期	
共通科目A (人間と社会)	哲学		2	1・2年	後期	
	世界の宗教		2	1・2年	前期	
	心理学		2	1・2年	後期	
	歴史学		2	1・2年	前期	
	現代史		2	1・2年	前期	
	法学（日本国憲法）		2	1・2年	後期	
	政治学		2	1・2年	後期	
	経済学		2	1・2年	前期	
	社会学		2	1・2年	前期	
	文化人類学		2	1・2年	後期	
	自然人類学		2	1・2年	前期	
	経営学		2	1・2年	後期	
	心の健康・身体の健康		2	1・2年	前期	
	メディアと社会		2	1・2年	後期	
	自己の認識を深める		2	1・2年	前期	
人間関係とコミュニケーション		2	1・2年	後期		

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
共通科目B (数理と自然)	基礎物理学		2	1・2年	前期	
	基礎化学		2	1・2年	前期	
	基礎生物学		2	1・2年	後期	
	物理・化学実験		2	1・2年	後期	
	地球環境論		2	1・2年	前期	
	情報社会論		2	1・2年	後期	
	データサイエンス		2	1・2年	後期	
共通科目C (芸術)	デッサン概論		2	1・2年	前期	
	油絵入門		2	1・2年	第3ターム	
	日本画入門		2	1・2年	第3ターム	
	立体造形概論		2	1・2年	後期	
	プレゼンテーション概論		2	1・2年	前期	
	デザイン工芸概論		2	1・2年	後期	
	コンピュータとアート		2	2年	後期	注1
	創作と人間		2	1・2年	前期	
初年次演習科目	3学部合同基礎演習	1		1年	前期	
キャリア形成・ 実践科目	キャリアデザイン i		1	1・2年	第1ターム	
	キャリアデザイン ii		1	1・2年	第4ターム	
	キャリアサポートベーシックA		1	2・3年	前期	
	キャリアサポートベーシックB		1	2・3年	後期	
	仕事体験演習		1	1・2年	通期	
	国際交流演習 I		1	全学年	通期	
	国際交流演習 II		1	全学年	通期	
	国際交流演習 III		1	全学年	通期	
国際交流演習 IV		1	全学年	通期		

注1 情報科学部生も履修可能だが、主として国際学部及び芸術学部生向けの講義内容となっている。

一般情報処理科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
一般情報処理科目	情報活用基礎	2		1年	第1ターム	

保健体育科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
保健体育科目	健康科学		2	1年	前期	
	体育実技Ⅰ		1	1年	前期	注2
	体育実技Ⅱ		1	1年	後期	注2

注2 「体育実技Ⅰ」の種目は初回の授業で、「体育実技Ⅱ」の種目は「体育実技Ⅰ」の最終授業で、希望調査を行い決定する。再履修を希望する場合で、希望調査に回答できなかった場合には、個別に担当教員に相談すること。

外国語系科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
英語科目	eラーニング英語Ⅰ	1		1年	前期	
	eラーニング英語Ⅱ	1		1年	後期	
	eラーニング英語Ⅲ	1		2年	前期	
	eラーニング英語Ⅳ	1		2年	後期	
	英語応用演習Ⅰ	1		1年	前期	
	英語応用演習Ⅱ	1		1年	後期	
	英語応用演習Ⅲ	1		2年	前期	
	英語応用演習Ⅳ	1		2年	前期	
英語以外の外国語系科目	ドイツ語Ⅰ		2	1年	前期	
	ドイツ語Ⅱ		2	1年	後期	
	ドイツ語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	ドイツ語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	フランス語Ⅰ		2	1年	前期	
	フランス語Ⅱ		2	1年	後期	
	フランス語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	フランス語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	中国語Ⅰ		2	1年	前期	
	中国語Ⅱ		2	1年	後期	
	中国語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	中国語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	ハングルⅠ		2	1年	前期	
	ハングルⅡ		2	1年	後期	
	ハングルⅢ		2	1・2年	前期	注3
	ハングルⅣ		2	1・2年	後期	注3

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
英語以外の 外国語系科目	アラビア語Ⅰ		2	1年	前期	
	アラビア語Ⅱ		2	1年	後期	
	アラビア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	アラビア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	ロシア語Ⅰ		2	1年	前期	
	ロシア語Ⅱ		2	1年	後期	
	ロシア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	ロシア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	イタリア語Ⅰ		2	1年	前期	
	イタリア語Ⅱ		2	1年	後期	
	イタリア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	イタリア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	スペイン語Ⅰ		2	1年	前期	
	スペイン語Ⅱ		2	1年	後期	
	スペイン語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	スペイン語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
日本語Ⅰ		2	1年	前期	注4	
日本語Ⅱ		2	1年	後期	注4	
日本語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3 注4	
日本語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3 注4	

注3 1年次が履修する場合は、科目担当教員の承認が必要である。

注4 外国人留学生対象科目であり、日本人学生は履修することはできない。

専門教育科目

専門基礎科目(4学科共通)

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門基礎科目	解析学 I A	1		1年	第1ターム	
	解析学 I B	1		1年	第2ターム	
	解析学IA演習	0.5		1年	第1ターム	
	解析学IB演習	0.5		1年	第2ターム	
	線形代数学IA	1		1年	第1ターム	
	線形代数学IB	1		1年	第2ターム	
	線形代数学IA演習	0.5		1年	第1ターム	
	線形代数学IB演習	0.5		1年	第2ターム	
	プログラミング I	2		1年	前期	
	プログラミング I 演習	1		1年	前期	
	コンピュータ基礎	2		1年	前期	
	情報科学英語	1		1年	第2ターム	
	解析学 II		2	1年	後期	
	線形代数学 II A	1		1年	第3ターム	
	線形代数学 II B	1		1年	第4ターム	
	実社会指向基礎数学	2		1年	後期	
	プログラミング II	2		1年	後期	
	プログラミング II 演習	1		1年	後期	
	データ構造とアルゴリズム I	2		1年	後期	
	情報科学序説		1	1年	第3ターム	
	離散数学		2	2年	第1ターム	
	確率統計	2		2年	第1ターム	
	情報基礎数学		2	2年	第2ターム	
	情報ネットワーク		2	2年	第1ターム	
	データ構造とアルゴリズム II		2	2年	第2ターム	
	実践的AI技術		2	2年	第2ターム	注5
	批判的創造的思考法		2	2年	第4ターム	注5
	実践的ICT活用事例		2	2年	第4ターム	
	課題解決型演習		1	2年	通年	㊦
	情報科学基礎実験a	1		2年	通年	
	情報科学基礎実験b	1		2年	通年	
	情報科学基礎実験c	1		2年	通年	
	情報セキュリティ基礎	2		2年	第3ターム	
	モデル化とシミュレーション		2	2年	第3ターム	注5
幾何学概論		2 (自由科目)	2年	第1ターム		
システム開発実践		2	3年	通年	㊦	

注5 イノベーション人材育成プログラム受講者のみ履修登録可

専門科目

情報工学科

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目	プログラミングⅢ		2	2年	第2ターム	
	常微分方程式		2	2年	第1ターム	注6
	観光情報学		2	2年	第2ターム	㊦
	高度プログラミングA		1	2年	第1ターム	注5
	高度プログラミングB		1	2年	第1ターム	注5
	高度プログラミングC		1	2年	第2ターム	注5
	高度プログラミングD		1	2年	第2ターム	注5
	デジタルデザイン		2	2年	第3ターム	
	オペレーティングシステム		2	2年	第3ターム	
	ネットワークプロトコル		2	2年	第3ターム	
	コンピュータグラフィックスⅠ		2	2年	第4ターム	注6
	コンピュータアーキテクチャ		2	2年	第4ターム	
	物理学		2	2年	第4ターム	
	情報システム開発		2	2年	第3ターム	
	最適化技法		2	2年	第4ターム	
	技術者倫理		2	2～4年	前期	
	情報と職業		2	2～4年	前期	
	知的財産権		2	2～4年	前期	
	情報セキュリティ応用		2	3年	第1ターム	
	データベース		2	3年	第1ターム	
	技術英語演習	1		3年	第1ターム	
	情報工学実験Ⅰ	1.5		3年	第1ターム	
	情報工学実験Ⅱ	1.5		3年	第2ターム	
	ネットワーク設計		2	3年	第1ターム	
	コンピュータシステム		2	3年	第2ターム	
	ネットワーク基盤技術		2	3年	第2ターム	
	情報理論		2	3年	第2ターム	
	医用データサイエンス		2	3年	第1ターム	
	リコンフィギャラブルコンピューティング		2	3年	第3ターム	
	分散システム		2	3年	第2ターム	
	ネットワークソフトウェア		2	3年	第2ターム	
	センサシステム		2	3年	第3ターム	
情報工学実験Ⅲ	1.5		3年	第3ターム		
情報工学実験Ⅳ	1.5		3年	第4ターム		

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目	画像情報処理		2	3年	第4ターム	注6
	設計最適化手法		2	3年	第4ターム	
	信頼性工学		2	3年	第4ターム	
	ワイヤレスネットワーク		2	3年	第4ターム	
	トラフィック分析		2	3年	第4ターム	
	デジタル信号処理		2	3年	第3ターム	
	プレゼンテーション技法	1		3年	第4ターム	
	技術文書作成法	1		4年	通年	
	卒業研究Ⅰ	4		4年	通年	
	卒業研究Ⅱ	4		4年	通年	

注5 イノベーション人材育成プログラム受講者のみ履修登録可

注6 教職課程登録者のみ履修登録可

知能工学科

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目	オートマトンと形式言語	2		2年	第2ターム	
	常微分方程式		2	2年	第1ターム	注6
	観光情報学		2	2年	第2ターム	㊦
	高度プログラミングA		1	2年	第1ターム	注5
	高度プログラミングB		1	2年	第1ターム	注5
	高度プログラミングC		1	2年	第2ターム	注5
	高度プログラミングD		1	2年	第2ターム	注5
	数理計画法		2	2年	第3ターム	
	数理論理学		2	2年	第3ターム	
	コンピュータグラフィックスⅠ		2	2年	第4ターム	
	プログラミングⅢ		2	2年	第3ターム	
	プログラミングⅢ演習		1	2年	第3ターム	
	グラフ理論		2	2年	第4ターム	
	オペレーティングシステム		2	2年	第4ターム	
	デジタル信号処理		2	2年	第3ターム	
	数値解析		2	2年	第4ターム	
	情報システム開発		2	2年	第3ターム	
	ソフトウェア工学概説		2	3年	第4ターム	
	技術者倫理		2	2～4年	前期	
	情報と職業		2	2～4年	前期	
	知的財産権		2	2～4年	前期	
	情報理論		2	3年	第1ターム	
	記号処理プログラミング		2	3年	第1ターム	
	データベース		2	3年	第1ターム	
	人工知能		2	3年	第2ターム	
	技術英語演習Ⅰ	1		3年	第4ターム	
	知能工学実験Ⅰ	1.5		3年	第1ターム	
	知能工学実験Ⅱ	1.5		3年	第2ターム	
	コンパイラ		2	3年	第2ターム	
	計算論		2	3年	第2ターム	
	コンピュータグラフィックスⅡ		2	3年	第2ターム	
	パターン認識		2	3年	第2ターム	
	情報検索		2	3年	第3ターム	
	医用データサイエンス		2	3年	第1ターム	
自然言語処理		2	3年	第1ターム		
医用画像処理		2	3年	第3ターム		

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目	データマイニング		2	3年	第3ターム	
	バイオインフォマティクスⅠ		1	3年	第3ターム	
	バイオインフォマティクスⅡ		1	3年	第4ターム	
	知能工学実験Ⅲ	1.5		3年	第3ターム	
	知能工学実験Ⅳ	1.5		3年	第4ターム	
	機械学習		2	3年	第4ターム	
	感性情報処理		2	3年	第3ターム	
	画像情報処理		2	3年	第4ターム	
	プレゼンテーション技法	1		4年	通年	
	技術英語演習Ⅱ	1		4年	通年	
	技術文書作成法	1		4年	通年	
	卒業研究Ⅰ	4		4年	通年	
	卒業研究Ⅱ	4		4年	通年	

注5 イノベーション人材育成プログラム受講者のみ履修登録可

注6 教職課程登録者のみ履修登録可

システム工学科

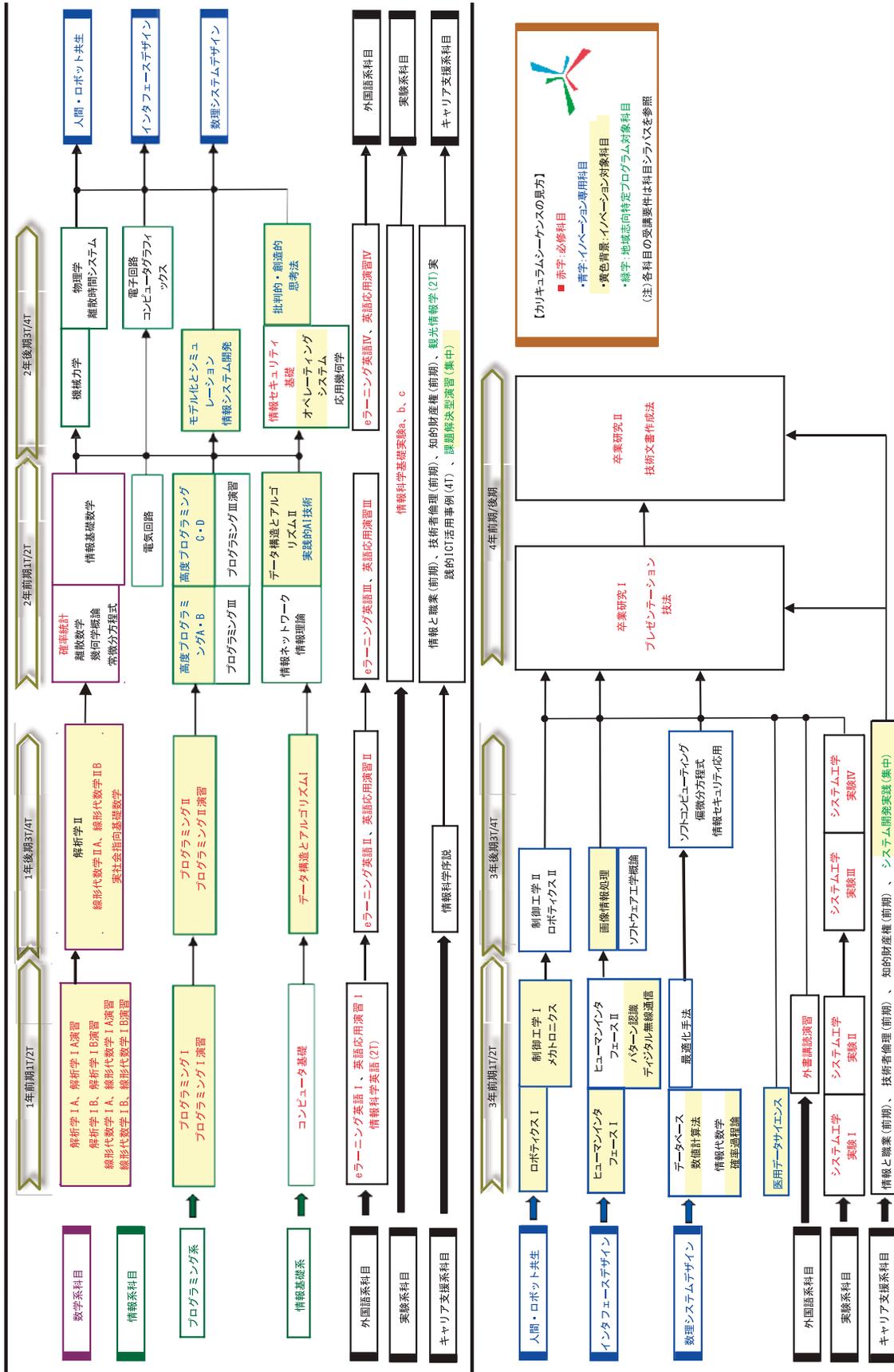
科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目	常微分方程式		2	2年	第1ターム	
	観光情報学		2	2年	第2ターム	㊦
	高度プログラミングA		1	2年	第1ターム	注5
	高度プログラミングB		1	2年	第1ターム	注5
	高度プログラミングC		1	2年	第2ターム	注5
	高度プログラミングD		1	2年	第2ターム	注5
	電気回路		2	2年	第2ターム	
	プログラミングⅢ		2	2年	第1ターム	
	プログラミングⅢ演習		1	2年	第2ターム	
	物理学		2	2年	第4ターム	
	情報理論		2	2年	第1ターム	
	応用幾何学		2	2年	第3ターム	
	情報システム開発		2	2年	第3ターム	
	機械力学		2	2年	第3ターム	
	電子回路		2	2年	第4ターム	
	コンピュータグラフィックス		2	2年	第4ターム	
	離散時間システム		2	2年	第4ターム	
	オペレーティングシステム		2	2年	第3ターム	
	知的財産権		2	2～4年	前期	
	情報と職業		2	2～4年	前期	
	技術者倫理		2	2～4年	前期	
	数値計算法		2	3年	第1ターム	
	システム工学実験Ⅰ	1.5		3年	第1ターム	
	システム工学実験Ⅱ	1.5		3年	第2ターム	
	メカトロニクス		2	3年	第2ターム	
	制御工学Ⅰ		2	3年	第2ターム	
	ロボティクスⅠ		2	3年	第1ターム	
	最適化手法		2	3年	第2ターム	
	デジタル無線通信		2	3年	第2ターム	
	外書講読演習	1		3年	前期	
	情報代数学		2	3年	第1ターム	
	確率過程論		2	3年	第1ターム	
	データベース		2	3年	第1ターム	注6
ヒューマンインタフェースⅠ		2	3年	第1ターム		
医用データサイエンス		2	3年	第1ターム		
ヒューマンインタフェースⅡ		2	3年	第2ターム		

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目	ソフトウェア工学概論		2	3年	第3ターム	
	画像情報処理		2	3年	第3ターム	
	制御工学Ⅱ		2	3年	第3ターム	
	偏微分方程式		2	3年	第4ターム	
	ロボティクスⅡ		2	3年	第3ターム	
	パターン認識		2	3年	第2ターム	
	情報セキュリティ応用		2	3年	第4ターム	
	ソフトコンピューティング		2	3年	第4ターム	
	システム工学実験Ⅲ	1.5		3年	第3ターム	
	システム工学実験Ⅳ	1.5		3年	第4ターム	
	プレゼンテーション技法	1		4年	通年	
	技術文書作成法	1		4年	通年	
	卒業研究Ⅰ	4		4年	通年	
	卒業研究Ⅱ	4		4年	通年	

注5 イノベーション人材育成プログラム受講者のみ履修登録可

注6 教職課程登録者のみ履修登録可

システム工学科カリキュラムシークエンス



医用情報科学科

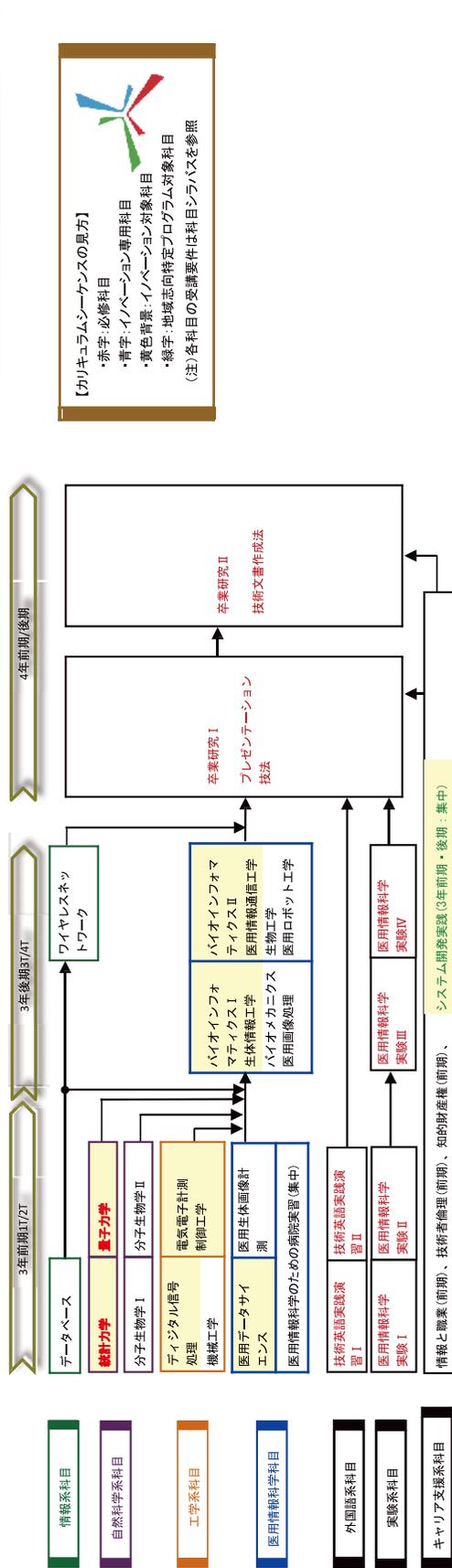
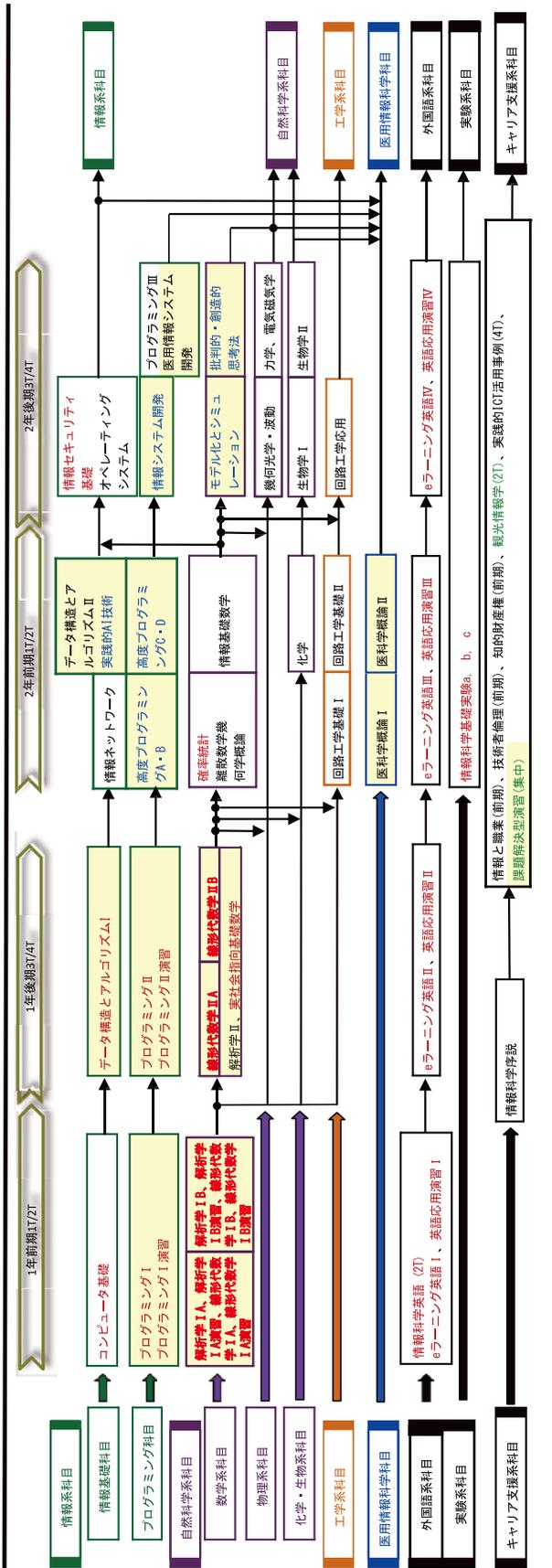
科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目	化学		2	2年	第2ターム	
	観光情報学		2	2年	第2ターム	㊦
	高度プログラミングA		1	2年	第1ターム	注5
	高度プログラミングB		1	2年	第1ターム	注5
	高度プログラミングC		1	2年	第2ターム	注5
	高度プログラミングD		1	2年	第2ターム	注5
	回路工学基礎Ⅰ		1	2年	第1ターム	
	回路工学基礎Ⅱ		1	2年	第2ターム	
	医科学概論Ⅰ		1	2年	第1ターム	
	医科学概論Ⅱ		1	2年	第2ターム	
	力学		2	2年	第4ターム	
	幾何光学・波動		2	2年	第3ターム	
	電気磁気学		2	2年	第4ターム	
	プログラミングⅢ		2	2年	第4ターム	
	回路工学応用		2	2年	第3ターム	
	生物学Ⅰ		1	2年	第3ターム	
	生物学Ⅱ		1	2年	第4ターム	
	医用情報システム開発		2	2年	第4ターム	
	オペレーティングシステム		2	2年	第3ターム	注6
	情報システム開発		2	2年	第3ターム	
	情報と職業		2	2～4年	前期	
	技術者倫理		2	2～4年	前期	
	知的財産権		2	2～4年	前期	
	技術者英語実践演習Ⅰ	0.5		3年	第1ターム	
	技術者英語実践演習Ⅱ	0.5		3年	第2ターム	
	医用情報科学実験Ⅰ	1.5		3年	第1ターム	
	医用情報科学実験Ⅱ	1.5		3年	第2ターム	
	医用データサイエンス		2	3年	第1ターム	注5
	医用情報科学のための病院実習		1	3年	第2ターム	
	デジタル信号処理		2	3年	第1ターム	
	機械工学		2	3年	第1ターム	
	データベース		2	3年	第1ターム	注6
	量子力学		1	3年	第2ターム	
	統計力学		1	3年	第1ターム	
制御工学		2	3年	第2ターム		
電気電子計測		2	3年	第2ターム		

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門科目	分子生物学Ⅰ		1	3年	第1ターム	
	分子生物学Ⅱ		1	3年	第2ターム	
	医用生体画像計測		2	3年	第2ターム	
	バイオインフォマティクスⅠ		1	3年	第3ターム	
	バイオインフォマティクスⅡ		1	3年	第4ターム	
	生物工学		2	3年	第4ターム	
	ワイヤレスネットワーク		2	3年	第4ターム	注6
	医用画像処理		2	3年	第3ターム	
	医用ロボット工学		2	3年	第4ターム	
	バイオメカニクス		2	3年	第3ターム	
	生体情報工学		2	3年	第3ターム	
	医用情報通信工学		2	3年	第4ターム	
	医用情報科学実験Ⅲ	1.5		3年	第3ターム	
	医用情報科学実験Ⅳ	1.5		3年	第4ターム	
	プレゼンテーション技法	1		4年	通年	
	技術文書作成法	1		4年	通年	
	卒業研究Ⅰ	4		4年	通年	
	卒業研究Ⅱ	4		4年	通年	

注5 イノベーション人材育成プログラム受講者のみ履修登録可

注6 教職課程登録者のみ履修登録可

医用情報科学科カリキュラムシークエンス



【カリキュラムシークエンスの見方】

- 赤字: 必修科目
- 青字: インターンシップ専用科目
- 黄色: 背景: インターンシップ対象科目
- 緑字: 地域志向特定プログラム対象科目

(注) 各科目の受講要件は科目シラバスを参照

芸術学部

【芸術学部】

卒業要件

卒業するためには、原則4年以上在学し、次の卒業要件表に定める単位を修得しなければなりません。
この要件は、卒業するまで有効です。必ず自身の入学年度の要件を確認してください。

科目区分		卒業要件単位数			
全学共通系科目	総合共通科目	広島・地域志向科目	2単位以上	30単位	128単位
		平和科目	2単位以上		
		共通科目A（人間と社会）	4単位以上		
		共通科目B（数理と自然）	2単位以上		
		共通科目C（芸術）	2単位以上		
		初年次演習科目	1単位		
		キャリア形成・実践科目	1単位以上		
	一般情報処理科目	2単位			
保健体育科目	2単位	98単位			
外国語系科目	6単位以上				
全学共通系科目または外国語系科目の選択必修*から		6単位	98単位		
専門教育科目	専門基礎科目	22単位			
	専門科目	76単位			

【卒業要件表の読み方】

- ・必要単位数が「～単位以上」と指定されている科目区分は、指定の単位数を超えて単位を修得した場合でも、卒業要件単位として数えられます。
 - ・「～単位」と指定されている科目区分は、指定の単位数までしか卒業要件単位としては数えられません。
- ※「選択必修」とは、決められた科目区分の中から、必要単位数分の科目を自身で選択して単位を修得することです。
上の表で「～単位以上」と指定されている科目区分は、選択必修科目で構成されています。

<よくある質問>

Q：卒業要件単位数を超えて単位を修得した場合、成績や単位は無効になりますか？

A：無効にはなりません。GPAにも換算され、成績証明書に表示されます。

履修基準

1. 全学共通系科目

必要単位数は卒業要件表のとおりです。必修科目は以下のとおりです。

【必修科目】

授業科目名 (単位数)		単位	開設年次	備考	合計単位
3学部合同基礎演習		1単位	1年		計5単位
情報活用基礎		2単位	1年		
体育実技Ⅰ(1)	健康科学(2)	2単位	1年	いずれかを選択	
体育実技Ⅱ(1)					

2. 外国語系科目

卒業までに外国語系科目の単位を6単位以上修得する必要があります。この6単位のうち、英語科目である「CALL 英語集中Ⅰ」、「CALL 英語集中Ⅱ」、「英語応用演習Ⅰ」、「英語応用演習Ⅱ」(各1単位)の計4単位は必修、すなわち、必ず履修しなければなりません。また、このほか英語科目である「英語応用演習Ⅲ」、「英語応用演習Ⅳ」、「CALL 英語集中Ⅲ」、「CALL 英語集中Ⅳ」(各1単位)及び英語以外の外国語系科目の中から2単位以上を履修してください。つまり、外国語系科目の6単位は英語科目のみで6単位とすることもできますし、英語科目4単位と第二外国語2単位とで6単位とすることもできます。英語のみを集中的に勉強するのか、あるいは第二外国語も履修して言語の幅を広げるのか、各自の進路も考慮しながら、よく考えて決めてください。下に基本的な履修パターンを2つ示します。

芸術学部の基本的な外国語系科目履修パターン①(英語科目のみを履修するパターン)

年次	学期	履修する授業科目(カッコ内は単位数)		合計単位
1年次	前期	CALL 英語集中Ⅰ(1)	英語応用演習Ⅰ(1)	計6単位
	後期	CALL 英語集中Ⅱ(1)	英語応用演習Ⅱ(1)	
2年次	前期	CALL 英語集中Ⅲ(1) または 英語応用演習Ⅲ(1)		
	後期	CALL 英語集中Ⅳ(1) または 英語応用演習Ⅳ(1)		

芸術学部の基本的な外国語系科目履修パターン②(第二外国語を履修するパターン)

年次	学期	履修する授業科目(カッコ内は単位数)			合計単位
1年次	前期	CALL 英語集中Ⅰ(1)	英語応用演習Ⅰ(1)	第二外国語Ⅰ(2)	計6単位
	後期	CALL 英語集中Ⅱ(1)	英語応用演習Ⅱ(1)		

3. 専門教育科目

芸術学部の専門教育科目は「専門基礎科目」と「専門科目」により構成されています。その履修基準は専門基礎科目22単位、専門科目76単位(必修)です。

卒業制作履修登録条件

4年次に進級し、卒業制作の履修登録を行うためには、以下のいずれかの条件を満たす必要があります。卒業制作は必修科目であり、履修登録ができないことは卒業延期となることを意味します。3年次までに計画的に単位を修得するようにしてください。

- | |
|---|
| (1) 次に掲げる条件を満たす者
3年次末において、卒業要件となる128単位のうち、90単位以上を修得
(2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者 |
|---|

教育課程表

開設年次は、当該科目を履修するのに適切な年次を示しています。例えば開設年次が1・2年の科目は、1年次または2年次のいずれかで履修時期を決めることが推奨されているものです。こうした場合であっても、自身の履修計画により、3年次以降に当該科目を履修（下年次履修）することも可能です。

全学共通系科目

総合共通科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
広島・地域志向科目	ひろしま論		2	1・2年	前期	④
	広島の産業と技術		2	1・2年	後期	④
	地域再生論入門		2	1・2年	前期	④
	NPO論		2	1・2年	前期	④
	地域課題演習		1	1・2年	通年	④
平和科目	平和と人権A（ヒロシマと国際平和）		2	1・2年	前期	
	平和と人権B（現代世界と人権）		2	1・2年	後期	
	広島からの平和学：実践の方法		2	1・2年	前期	
	国際化時代の平和		2	1・2年	後期	
	「ヒロシマ」を考える		2	1・2年	後期	
共通科目A (人間と社会)	哲学		2	1・2年	後期	
	世界の宗教		2	1・2年	前期	
	心理学		2	1・2年	後期	
	歴史学		2	1・2年	前期	
	現代史		2	1・2年	前期	
	法学（日本国憲法）		2	1・2年	後期	
	政治学		2	1・2年	後期	
	経済学		2	1・2年	前期	
	社会学		2	1・2年	前期	
	文化人類学		2	1・2年	後期	
	自然人類学		2	1・2年	前期	
	経営学		2	1・2年	後期	
	心の健康・身体の健康		2	1・2年	前期	
	メディアと社会		2	1・2年	後期	
	自己の認識を深める		2	1・2年	前期	
人間関係とコミュニケーション		2	1・2年	後期		

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
共通科目B (数理と自然)	数学概論		2	1・2年	前期	
	物理学概論		2	1・2年	前期	
	基礎物理学		2	1・2年	前期	注1
	化学概論		2	1・2年	後期	
	基礎化学		2	1・2年	前期	注1
	生物学概論		2	1・2年	前期	
	基礎生物学		2	1・2年	後期	注1
	情報科学概論		2	1・2年	後期	
	物理・化学実験		2	1・2年	後期	注1
	地球環境論		2	1・2年	前期	
	情報社会論		2	1・2年	後期	
データサイエンス		2	1・2年	後期		
共通科目C (芸術)	プレゼンテーション概論		2	1・2年	前期	
	デザイン工芸概論		2	1・2年	後期	
	コンピュータとアート		2	2年	後期	
	創作と人間		2	1・2年	前期	
初年次演習科目	3学部合同基礎演習	1		1年	前期	
キャリア形成・ 実践科目	キャリアデザイン i		1	1・2年	第1ターム	
	キャリアデザイン ii		1	1・2年	第4ターム	
	キャリアサポートベーシックA		1	2・3年	前期	
	キャリアサポートベーシックB		1	2・3年	後期	
	仕事体験演習		1	1・2年	通年	
	国際交流演習 I		1	全学年	通年	
	国際交流演習 II		1	全学年	通年	
	国際交流演習 III		1	全学年	通年	
国際交流演習 IV		1	全学年	通年		

注1 芸術学部生も履修可能だが、主として情報科学部生向けの講義内容となっている。

一般情報処理科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
一般情報処理科目	情報活用基礎	2		1年	前期	

保健体育科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
保健体育科目	健康科学		2	1年	前期	
	体育実技 I		1	1年	前期	注2
	体育実技 II		1	1年	後期	注2

注2 「体育実技 I」の種目は初回の授業で、「体育実技 II」の種目は「体育実技 I」の最終授業で、希望調査を行い決定する。再履修を希望する場合で、希望調査に回答できなかった場合には、個別に担当教員に相談すること。

外国語系科目

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
英語科目	CALL英語集中Ⅰ	1		1年	前期	
	CALL英語集中Ⅱ	1		1年	後期	
	CALL英語集中Ⅲ		1	2年	前期	
	CALL英語集中Ⅳ		1	2年	後期	
	英語応用演習Ⅰ	1		1年	前期	
	英語応用演習Ⅱ	1		1年	後期	
	英語応用演習Ⅲ		1	2年	前期	
	英語応用演習Ⅳ		1	2年	後期	
英語以外の 外国語系科目	ドイツ語Ⅰ		2	1年	前期	
	ドイツ語Ⅱ		2	1年	後期	
	ドイツ語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	ドイツ語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	フランス語Ⅰ		2	1年	前期	
	フランス語Ⅱ		2	1年	後期	
	フランス語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	フランス語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	中国語Ⅰ		2	1年	前期	
	中国語Ⅱ		2	1年	後期	
	中国語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	中国語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	ハングルⅠ		2	1年	前期	
	ハングルⅡ		2	1年	後期	
	ハングルⅢ		2	1・2年	前期	注3
	ハングルⅣ		2	1・2年	後期	注3
	アラビア語Ⅰ		2	1年	前期	
	アラビア語Ⅱ		2	1年	後期	
	アラビア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	アラビア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
ロシア語Ⅰ		2	1年	前期		
ロシア語Ⅱ		2	1年	後期		
ロシア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3	
ロシア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3	

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
英語以外の 外国語系科目	イタリア語Ⅰ		2	1年	前期	
	イタリア語Ⅱ		2	1年	後期	
	イタリア語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	イタリア語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	スペイン語Ⅰ		2	1年	前期	
	スペイン語Ⅱ		2	1年	後期	
	スペイン語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3
	スペイン語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3
	日本語Ⅰ		2	1年	前期	注4
	日本語Ⅱ		2	1年	後期	注4
	日本語Ⅲ		2	1・2年	前期	注3 注4
	日本語Ⅳ		2	1・2年	後期	注3 注4

注3 1年次が履修する場合は、科目担当教員の承認が必要である。

注4 外国人留学生対象科目であり、日本人学生は履修することはできない。

専門教育科目

専門基礎科目(2学科共通)

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門基礎科目	現代美術演習Ⅰ		2	1年	通年	
	デザイン概論		2	1年	前期	注6
	工芸概論		2	1年	前期	注6
	絵画材料論		2	1年	前期	
	美術解剖学Ⅰ		2	1年	前期	注5
	美術解剖学Ⅱ		2	1年	後期	注5
	油絵入門		2	1年	第3ターム	
	日本画入門		2	1年	第3ターム	
	色彩論		2	1年	後期	注6
	図法及び製図		2	2年	後期	注6
	材料技法演習(木工)		1	2年	第3ターム	
	材料技法演習(塗装)		1	2年	第4ターム	
	現代美術演習Ⅱ		2	2年	通年	
	芸術工学		2	2年	前期	
	工芸材料概説		2	2年	前期	
	写真/映像概論		2	2年	前期	
	西洋美術史Ⅰ		2	2年	前期	
	西洋美術史Ⅱ		2	2年	後期	
	日本美術史Ⅰ		2	2年	前期	
	日本美術史Ⅱ		2	2年	後期	
	現代美術史Ⅰ		2	2年	前期	
	現代美術史Ⅱ		2	2年	後期	
	版画制作演習		2	2年	後期	
	絵画論		2	2年	後期	
	アートマネージメント概論		2	2年	後期	㊦
	アーティスト・セルフマネージメント概論		2	2年	後期	
	美学Ⅰ		2	2年	前期	
	美学Ⅱ		2	2年	後期	
	文化財学研究		2	3年	前期	
	彫刻概論		2	3年	前期	注7
	東洋美術史Ⅰ		2	3年	前期	
	東洋美術史Ⅱ		2	3年	後期	
現代美術論		2	3年	後期		

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門基礎科目	地域実践演習		1	3年	通年	Ⓓ
	芸術と知的財産権		1	3年	第3ターム	
	造形応用研究Ⅰ		2	1～4年	通年	Ⓓ
	造形応用研究Ⅱ		2	2～4年	通年	Ⓓ

注5 「美術解剖学Ⅰ」「美術解剖学Ⅱ」は、美術学科彫刻専攻の学生は履修することが望ましい。

注6 「デザイン概論」「工芸概論」「色彩論」「図法及び製図」は選択科目であるが、デザイン工芸学科の学生は履修することが望ましい。

注7 美術学科彫刻専攻の学生は、この科目ではなく、専門科目の「彫刻論（古典研究を含む。）」（必修）を履修すること。

特別聴講生対象科目

科目区分	授業科目名	単位数 (自由単位)	開設年次	開設学期	備考
専門基礎科目	専門演習Ⅰ	3	1～4年	通年	
	専門演習Ⅱ	3	1～4年	通年	
	専門演習Ⅲ	3	1～4年	通年	
	専門演習Ⅳ	3	1～4年	通年	

専門科目

美術学科 日本画専攻

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門基礎科目	工芸制作A（演習）		2	2年	前期	
専門科目	日本画実習ⅠA	4		1年	前期	
	日本画実習ⅠB	4		1年	後期	
	材料実習Ⅰ	2		1年	前期	
	デッサン実習Ⅰ	2		1年	後期	
	構成演習Ⅰ（平面）	2		1年	後期	
	日本画実習ⅡA	6		2年	前期	
	日本画実習ⅡB	4		2年	後期	
	デッサン実習Ⅱ	2		2年	前期	
	構成演習Ⅱ（平面）	1		2年	後期	
	材料実習Ⅱ（金属材料）	2		2年	後期	
	彫塑演習	2		2年	後期	
	日本画実習ⅢA	6		3年	前期	
	日本画実習ⅢB	4		3年	後期	
	古美術研究（演習）	6		3年	通年	
	デッサン実習Ⅲ	2		3年	後期	
	材料実習Ⅲ	2		3年	前期	
	構成実習（平面）	2		3年	後期	
	日本画実習Ⅳ	10		4年	通年	
	絵画論演習	2		4年	後期	
	技法演習（裏打技法）	2		4年	前期	
卒業制作（演習）	9		4年	後期		

美術学科 油絵専攻

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門基礎科目	工芸制作A (演習)		2	2年	前期	
専門科目	油絵基礎演習	2		1年	前期	
	デッサン実習 I	4		1年	前期	
	構成演習 I	2		1年	前期	
	油絵実習 I	4		1年	後期	
	彫塑演習	2		1年	後期	
	版画制作実習 I	2		1年	後期	
	油絵実習 II A	5		2年	前期	
	版画制作実習 II	3		2年	前期	
	学外演習	2		2年	後期	
	油絵実習 II B	2		2年	後期	
	デッサン実習 II	2		2年	後期	
	構成演習 II	2		2年	後期	
	油絵材料・技法演習 (古典技法)	2		2年	後期	
	古美術研究 (演習)	6		3年	通年	
	構成演習 III	2		3年	前期	
	油絵実習 III A	6		3年	前期	
	デッサン演習 III	2		3年	後期	
	油絵実習 III B	6		3年	後期	
	油絵実習 IV A	6		4年	前期	
	卒業制作A (演習)	4		4年	前期	
油絵実習 IV B	6		4年	後期		
卒業制作B (演習)	4		4年	後期		

美術学科 彫刻専攻

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門基礎科目	工芸制作A (演習)		2	2年	前期	
専門科目	彫刻実習Ⅰ	8		1年	通年	
	デッサン実習Ⅰ	2		1年	通年	
	構成演習Ⅰ	2		1年	前期	
	実材制作基礎演習 (工芸制作を含む。)	4		1年	後期	
	彫刻実習ⅡA	6		2年	前期	
	彫刻実習ⅡB	4		2年	後期	
	デッサン実習Ⅱ	2		2年	後期	
	実材制作実習Ⅰ	2		2年	前期	
	構成実習Ⅱ (平面・立体)	2		2年	後期	
	彫刻実習ⅢA	6		3年	前期	
	彫刻実習ⅢB	4		3年	後期	
	古美術研究 (演習)	6		3年	通年	
	実材制作実習Ⅱ	2		3年	後期	
	彫刻論 (古典研究を含む。)	2		3年	前期	
	構成実習Ⅲ (立体)	2		3年	後期	
	デッサン実習Ⅲ	2		3年	前期	
	彫刻実習Ⅳ	10		4年	通年	
卒業制作	10		4年	通年		

デザイン工芸学科

科目区分	授業科目名	単位数		開設年次	開設学期	備考
		必修	選択			
専門基礎科目	工芸制作B (演習)		2	2年	前期	
専門科目	造形実習ⅠA	4		1年	前期	
	描出演習Ⅰ	2		1年	後期	
	造形実習ⅠB	4		1年	後期	
	形体演習Ⅰ	2		1年	前期	
	総合表現研究 (演習)	2		2年	通年	
	造形実習ⅡA	6		2年	前期	
	形体演習Ⅱ	2		2年	前期	
	造形実習ⅡB	6		2年	後期	
	描出演習Ⅱ	2		2年	後期	
	古美術研究 (演習)	4		3年	通年	
	テーマ研究 (演習)	6		3年	通年	
	造形実習ⅢA	6		3年	前期	
	造形実習ⅢB	6		3年	後期	
	造形研究 (演習)	12		4年	前期	
	卒業制作 (演習)	12		4年	後期	

教員養成課程

教員を目指す人へ

教育職員免許状の取得を希望する人は、本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ、教育職員免許法の定めるところにより所定の単位を修得する必要があります。また、いちぼる（UNIPA）により希望資格登録を行わなければなりません。

1. 免許状の種類

学部	学科	免許状の種類	
		中一種免	高一種免
国際学部	国際学科	中学校教諭 一種免許状（英語） 中学校教諭 一種免許状（社会）	高等学校教諭 一種免許状（英語） 高等学校教諭 一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭 一種免許状（公民）
情報科学部	情報工学科 知能工学科 システム工学科		高等学校教諭 一種免許状（数学） 高等学校教諭 一種免許状（情報）
	医用情報学科		高等学校教諭 一種免許状（情報）
芸術学部	美術学科 日本画専攻 油絵専攻 彫刻専攻	中学校教諭 一種免許状（美術）	高等学校教諭 一種免許状（美術）
	デザイン工芸学科	中学校教諭 一種免許状（美術）	高等学校教諭 一種免許状（美術） 高等学校教諭 一種免許状（工芸）

なお、この手引きでは、中学校教諭一種免許状を「中一種免」、高等学校教諭一種免許状を「高一種免」とそれぞれ略して表示することがあります。

※所属学科が認定を受けていない免許状は、取得できません。

※国際学科において、中一種免（社会）と高一種免（地理歴史）、高一種免（公民）の組み合わせであれば同時に取得が可能ですが、英語の免許状を同時に取得することはできません。

2. 免許状取得要件

教育職員免許状を取得するためには、基礎資格（学士の学位を有すること）に加えて、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」から合計59単位以上修得するとともに、「教育職員免許法施行第66条の6に定める科目」を修得する必要があります。（中学校教諭一種免許状にあっては、「介護等体験」も必要です。）

※最低修得単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入することができます。

免許法施行規則に定める科目区分等			必要単位数等				
科目		各科目に含めることが必要な事項	中一種免		高一種免		合計
全学部 共通	①教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10	27	10	23	59
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10		8		
		教育実践に関する科目	7		5		
②大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目	4	4	12	12		
学部別	③教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	20	28	20	24	
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8		4		
全学部 共通	④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	8	2	8	8
		体育	2		2		
		外国語コミュニケーション	2		2		
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2		2		
国際学部・ 芸術学部	介護等体験		要 (1週間)	—	不要	—	—
全学部 共通	教育実習		要 (3週間)	5	要 (2週間)	3	

3. 介護等体験について

中学校教諭一種免許状取得のための必要要件として、所定の単位の修得以外に、法令により、介護等体験が義務づけられています（介護等体験は授業ではありません。）。

介護等体験の概要は以下のとおりです。

〈趣旨〉

「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する」ことを目的としています。

〈内容〉

具体的な体験内容は、受入れ学校・施設ごとに異なります。特別支援学校の児童等や高齢者等の施設利用者に対する介護、介助のほか、障がい者等の話し相手、散歩の付き添い、掃除や洗濯などの職員業務の補助といった、幅広い体験内容が想定されています。

〈介護等体験施設の決定〉

介護等体験は大学がとりまとめて申込手続きをします（学生個人で直接申込することはできません）。特別支援学校の場合は広島県教育委員会経由、社会福祉施設の場合は広島県社会福祉協議会を経由して、実施施設が決定します。

〈実施年次〉

教育実習前年度、原則3年次とします。

〈体験時期〉

通常、7月から12月に行われます。日程は、受入れ学校・施設側の都合により決定されますので、学生本人が体験時期を希望することはできません。

〈期間〉

免許状申請時までに7日間以上の体験が必要です。本学における体験期間7日間の内訳は、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間です。

〈事前指導〉

中一種免の取得を希望する学生は、学内事前指導に必ず出席し、必要な手続きを行ってください。

〈体験証明書〉

介護等体験後には証明書が発行されます。この証明書は、中一種免の教育職員免許状申請時に必要となります。受入れ学校・施設から受け取った場合には、体験終了後1週間以内に事務局教務グループに提出してください。

4. 介護等体験のスケジュール

時期（予定）	年次	行事	内容
2027年2月	2年次	介護等体験学内事前指導	・介護等体験の説明・申込
2027年4月	3年次	介護等体験ガイダンス	・申込書、学生個人票の記入 ・体験費用の納入(1万2千円程度)
2027年5月	3年次	介護等体験合同事前指導	・広島地区大学合同事前指導
2027年6月～7月	3年次	介護等体験直前指導	・外部講師による講演
2027年7月～12月	3年次	介護等体験	・特別支援学校(2日間)及び社会福祉施設(5日間)での介護等体験

※別途、介護等体験のための予防接種、各種検査、交通費等は個人で負担します。

5. 教育実習受講条件

4年次に教育実習を受講するためには、3年次末までに以下の条件を満たす必要があります。

科目区分	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
教育の基礎的理解に関する科目等	「教師論」、「教育原理」を含む 12単位以上修得	「教師論」、「教育原理」を含む 10単位以上修得
教科及び教科の指導法に関する科目	実習教科の「教科教育法(※)」を含む 18単位以上修得	実習教科の「教科教育法(※)」を含む 20単位以上修得

6. 教職課程のスケジュール

時期（予定）	年次	行事	内容
2025年以降 毎年度前期及び後期	1～4年次	希望資格登録	・原則、履修登録期間中にいちぼる (UNIPA)にて登録
2026年度後期	2年次	履修カルテガイダンス	・履修カルテの説明・作成 ※3年次、4年次にも教職科目講義中 に適宜ガイダンスが行われます
2027年2月	2年次	教育実習事前指導①	・外部講師による講演
2027年4月	3年次	内諾ガイダンス	・教育実習の内諾申込の方法説明
2027年5月～8月末	3年次	教育実習校へ内諾申込	・各自母校を訪問し、教育実習申込
2028年4月	4年次	教育実習事前指導②	・教育実習簿の受取 ・教育実習費の納入(3千円程度) ※
2028年5月～	4年次	教育実習	2週間(高一種免許希望者)又は3週間 (中一種免許希望者)の教育実習
2028年10月	4年次	教員免許状申請ガイダンス	・申請方法の説明 ・免許状申請手数料(3,400円/件) の納入
		教育実習事後指導	・教育実習の報告等

※別途、教育実習校における教育実習費・教材費が発生した場合は、個人で負担します。

7. 教育職員免許状の申請について

教員免許とは正式名称を「教育職員免許状」といい、大学に必要な単位を修得し、都道府県の教育委員会に申請することで授与されます。

3月卒業予定者については、本人に代わって本学が広島県教育委員会に申請します（一括申請）。4年次の教員免許状申請ガイダンスに必ず出席し、必要な手続きを行ってください。広島県教育委員会から授与された免許状は、卒業式当日に交付します。

教育職員免許状受領資格取得関係科目表

教育の基礎的理解に関する科目等

※卒業要件に含まれない

免許法施行規則に定める科目区分等		中 種	高 種	左記に対応する本学の開設授業科目				中一種免		高一種免	
科目	各科目に含めることが 必要な事項	最低修得 単位数		授業科目名	単位 数	開設 年次	学 期	必 修	選 択	必 修	選 択
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	教育原理	2	2年	前期	2		2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教師論	2	1年	後期	2		2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連帯及び学校安全への対応を含む。）			教育経営学	2	3年	前期	2		2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学	2	2年	後期	2		2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育論	1	3年	第1ターム	1		1	
	教育課程の意義及び構成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論	1	2年	第3ターム	1		1	
道徳、総合的な学習の時間等及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	8	道徳教育論	2	2年	後期	2			
	総合的な学習の時間の指導法（高校は「総合的な探究の時間の指導法」）			総合的な学習の時間論	1	2年	第4ターム	1		1	
	特別活動の指導法			特別活動論	1	3年	第2ターム	1		1	
	教育の方法及び技術			教育方法・技術論	1	2年	第3ターム	1		1	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			情報通信技術を活用した教育の理論	1	2年	第4ターム	1		1	
	生徒指導の理論及び方法			生徒・進路指導論	2	3年	前期	2		2	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談論	2	2年	前期	2		2	
教育実践に関する科目	教育実習	5	3	教育実習Ⅰ	3	4年	通年	3		3	
				教育実習Ⅱ	2	4年	通年	2			2
	教職実践演習	2	2	教職実践演習（中等）A〈国際〉	2	4年	後期	2		2	
				教職実践演習（中等）B〈情報〉	2	4年	後期				
教職実践演習（中等）C〈芸術〉	2	4年	後期								
		27	23	必修合計				27		23	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	中一種	高一種	左記に対応する本学の開設授業科目				中一種免		高一種免		備考
科目区分	最低修得単位数		授業科目名	単位数	開設年次	学期	必修	選択	必修	選択	
大学が独自に設定する科目	4	12	学校インターンシップ	2	2～4年	通年		2		2	国際学部、芸術学部のみ履修可
			教職特講	2	3年	後期		2		2	
			道徳教育論	2	2年	後期					2
	4	12	選択合計					4		6	

※「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」において、最低単位数を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」に算入することができる。

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する本学の開設授業科目				中一種免		高一種免		備考		
科目区分	最低修得単位数		授業科目名	単位数	開設年次	学期	必修	選択		必修	選択
日本国憲法	2		法学（日本国憲法）	2	1・2年	前期 後期	2		2		前期：国際学部 後期：情報科学部・芸術学部
体育	2		健康科学	2	1年	前期	2		2		左記3科目から2単位以上学部卒業要件を満たせば充足。
			体育実技Ⅰ	1	1年	前期					
			体育実技Ⅱ	1	1年	後期					
外国語コミュニケーション	2		CALL英語集中Ⅰ	1	1年	前期	2		2		国際学部 学部卒業要件を満たせば充足。
			CALL英語集中Ⅱ	1	1年	後期					
			英語応用演習Ⅰ	1	1年	前期					
			英語応用演習Ⅱ	1	1年	後期					
			eラーニング英語Ⅰ	1	1年	前期					
			eラーニング英語Ⅱ	1	1年	後期					
			eラーニング英語Ⅲ	1	2年	前期					情報科学部 学部卒業要件を満たせば充足。
			eラーニング英語Ⅳ	1	2年	後期					
			英語応用演習Ⅰ	1	1年	前期					
			英語応用演習Ⅱ	1	1年	後期					
			CALL英語集中Ⅰ	1	1年	前期					
			CALL英語集中Ⅱ	1	1年	後期					
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2		情報活用基礎	2	1年	前期	2		2		学部卒業要件を満たせば充足。
	8		必修合計				8		8		

教科及び教科の指導法に関する科目 (国際学部)

国際学科

①免許種：中学校教諭一種免許状 (英語)、高等学校教諭一種免許状 (英語)

免許法施行規則に定める科目区分等		中 種	高 種	左記に対応する本学の開設授業科目			中一種免		高一種免	
科目区分	各科目に含めることが必要事項	最低修得単位数		授業科目名	開設年次	学期	必修	選択	必修	選択
教科に関する専門的事項	英 語 学	28	24	英語学概論 I	3年	前期	2		2	
				英語学概論 II	3年	後期	2		2	
	英 語 文 学			英文法論	3年	前期		2		2
				英米文学概論 I	3年	前期	2		2	
				英米文学概論 II	3年	後期	2		2	
				Special Lecture in British and American Literature I	3年	前期		2		2
				Special Lecture in British and American Literature II	3年	後期		2		2
				Communication in English I	3年	前期	1		1	
	英語コミュニケーション			Communication in English II	3年	後期	1		1	
				時事英語	3年	前期		2		2
				英語聴解法	3年	後期		2		2
				翻訳論 I	2年	前期		2		2
				翻訳論 II	2年	後期		2		2
				英文構成法 I	3年	前期		2		2
				英文構成法 II	3年	後期		2		2
				英語スキルアップ I	2年	前期		2		2
				英語スキルアップ II	2年	後期		2		2
				異文化理解	イギリス文化論 I	2年	前期	2		2
	イギリス文化論 II				2年	後期	2		2	
	American Culture I				2年	前期	2		2	
	American Culture II				2年	後期	2		2	
	コミュニケーション技法論 I				2年	前期		2		2
	コミュニケーション技法論 II				2年	後期		2		2
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ※卒業要件単位にはなりません				教科教育法 (英語) A I	2年	前期	2		2
教科教育法 (英語) A II		2年	後期		2		2			
教科教育法 (英語) B I		3年	前期	2		2				
教科教育法 (英語) B II		3年	後期	2		2				
		28	24	必修合計			26		22	

②免許種：中学校教諭一種免許状（社会）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			中一種免		備考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択	
教科に 関する 専門的 事項	日本史・外国史	28	日本史概論Ⅰ	2年	前期	2		
			日本史概論Ⅱ	2年	後期	2		
			世界史概論Ⅰ	2年	前期	2		
			世界史概論Ⅱ	2年	後期	2		
			国際関係史（ロシア）Ⅰ	3年	前期		2	
			国際関係史（日本）Ⅰ	3年	前期		2	
			日本文化史Ⅰ	1年	後期		2	
			東南アジア研究	2年	後期		2	
			フランス文化論	2年	後期		2	
	地 理 学 (地誌を含む。)		地理学概論	1年	後期	2		
			比較地誌学	2年	前期	2		
			国際開発学	1年	後期		2	
			地域再生論	2年	後期		2	
			比較文化論Ⅰ	2年	前期		2	
			中東アラブ研究	2年	前期		2	
			アフリカ研究	1年	後期		2	
	「法律学、政治学」		国際政治理論	2年	後期		2	いずれか 1科目 選択必修
			国際取引と法Ⅰ	3年	前期		2	
			国際関係論	1年	前期		2	
			国際政治学	2年	後期		2	
			平和研究Ⅰ	1年	後期		2	
	「社会学、経済学」		ミクロ経済学Ⅰ	1年	後期		2	いずれか 1科目 選択必修
			マクロ経済学Ⅰ	1年	後期		2	
			環境社会学	2年	後期		2	
			基本統計学	2年	前期		2	
			金融論	2年	後期		2	
			経済政策論Ⅰ	2年	前期		2	
	「哲学、倫理学、 宗 教 学」		社会文化思想史Ⅰ	1年	後期	2		
			エスニシティと宗教Ⅰ	2年	後期		2	
			共生の哲学Ⅰ	2年	前期		2	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません	教科教育法（社会・地理歴史）Ⅰ	2年	後期	2				
	教科教育法（社会・地理歴史）Ⅱ	3年	後期	2				
	教科教育法（社会・公民）Ⅰ	2年	前期	2				
	教科教育法（社会・公民）Ⅱ	3年	前期	2				
		28	必修合計			26		

③免許種：高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目				高一種免		
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択		
教科に関する専門的事項	日 本 史	24	日本史概論Ⅰ	2年	前期	2			
			日本史概論Ⅱ	2年	後期	2			
			国際関係史（日本）Ⅰ	3年	前期		2		
			国際関係史（日本）Ⅱ	3年	後期		2		
			日本政治論	2年	前期		2		
			国際日本学	3年	前期		2		
			日本文化史Ⅰ	1年	後期		2		
			日本文化史Ⅱ	2年	前期		2		
	外 国 史		世界史概論Ⅰ	2年	前期	2			
			世界史概論Ⅱ	2年	後期	2			
			国際関係史（アメリカ）Ⅰ	3年	前期		2		
			国際関係史（ロシア）Ⅰ	3年	前期		2		
			東南アジア研究	2年	後期		2		
			フランス文化論	2年	後期		2		
	人文地理学・ 自然地理学		地理学概論	1年	後期	2			
			国際開発学	1年	後期		2		
			地域再生論	2年	後期		2		
			比較文化論Ⅰ	2年	前期		2		
			比較民族学Ⅰ	3年	前期		2		
			比較地誌学	2年	前期	2			
	地 誌		ラテンアメリカ研究Ⅰ	3年	後期		2		
			中東アラブ研究	2年	前期		2		
			アフリカ研究	1年	後期		2		
			教科教育法（社会・地理歴史）Ⅰ	2年	後期	2			
	各教科の指導法 （情報通信技術の活用 を含む。）※卒業要件 単位にはなりません			教科教育法（社会・地理歴史）Ⅱ	3年	後期	2		
			24	必修合計				16	

④免許種：高等学校教諭一種免許状（公民）

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			高一種免		備考
科目区分	各科目に含めることが必要事項	最低修得単位数	授業科目名	開設年次	学期	必修	選択	
教科に関する専門的事項	「法 律 学 (国際法を含む。)、 政 治 学 (国際政治を含む。)」	24	国際政治理論	2年	後期		2	いずれか1科目 選択必修
			国際取引と法Ⅰ	3年	前期		2	
			国際関係論	1年	前期		2	
			国際安全保障論	2年	前期		2	
			国際政治学	2年	後期		2	
			開発政治論Ⅰ	3年	前期		2	
			開発政治論Ⅱ	3年	後期		2	
			平和研究Ⅰ	1年	後期		2	
			Peace and Conflict Studies	2年	前期		2	
	「社 会 学、 社 会 学、 経 済 学 (国際経済を含む。)」		ミクロ経済学Ⅰ	1年	後期		2	いずれか1科目 選択必修
			マクロ経済学Ⅰ	1年	後期		2	
			環境社会学	2年	後期		2	
			ミクロ経済学Ⅱ	2年	前期		2	
			マクロ経済学Ⅱ	2年	後期		2	
			基本統計学	2年	前期		2	
			金融論	2年	後期		2	
			経済政策論Ⅰ	2年	前期		2	
			経済政策論Ⅱ	2年	後期		2	
	開発社会学		2年	前期		2		
	「哲 倫 学、 宗 教 学、 宗 教 学、 心 理 学」		社会文化思想史Ⅰ	1年	後期		2	
			エスニシティと宗教Ⅰ	2年	後期		2	
			エスニシティと宗教Ⅱ	3年	前期		2	
			社会文化思想史Ⅱ	2年	前期		2	
			共生の哲学Ⅰ	2年	前期		2	
			共生の哲学Ⅱ	2年	後期		2	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ※卒業要件単位にはなりません		教科教育法（社会・公民）Ⅰ	2年	前期		2	
			教科教育法（社会・公民）Ⅱ	3年	前期		2	
		24	必修合計			6		

教科及び教科の指導法に関する科目 (情報科学部)

情報工学科

①免許種：高等学校教諭一種免許状 (数学)

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			高一種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低取得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択
教科に 関する 専門的 事項	代 数 学	24	線形代数学ⅠA	1年	第1ターム	1	
			線形代数学ⅠB	1年	第2ターム	1	
			線形代数学ⅡA	1年	第3ターム	1	
			線形代数学ⅡB	1年	第4ターム	1	
	幾 何 学		幾何学概論 ※卒業要件に含まれない	2年	第1ターム	2	
			離散数学	2年	第1ターム	2	
	解 析 学		解析学ⅠA	1年	第1ターム	1	
			解析学ⅠB	1年	第2ターム	1	
			解析学Ⅱ	1年	後期	2	
			常微分方程式	2年	第1ターム		2
	[確率論、統計学]		情報基礎数学	2年	第2ターム		2
			確率統計	2年	第1ターム	2	
	コンピュ ータ		情報理論	3年	第2ターム		2
			データ構造とアルゴリズムⅠ	1年	後期	2	
			プログラミングⅠ	1年	前期	2	
			プログラミングⅠ演習	1年	前期	1	
			実社会指向基礎数学	1年	後期		2
			コンピュータアーキテクチャ	2年	第4ターム		2
			コンピュータシステム	3年	第2ターム		2
			デジタルデザイン	2年	第3ターム		2
最適化技法	2年	第4ターム		2			
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません	教科教育法 (数学)Ⅰ	3年	前期	2			
	教科教育法 (数学)Ⅱ	3年	後期	2			
		24	必修合計			23	

②免許種：高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			高一種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低取得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択
教科に関する 専門的 事項	情報社会（職業 に関する内容を 含む。）・情報倫理	24	情報社会論 ※全学共通系科目	1・2年	後期	2	
			知的財産権	2～4年	前期	2	
			情報と職業	2～4年	前期	2	
	コンピュータ・ 情報処理		コンピュータ基礎	1年	前期	2	
			プログラミングⅡ	1年	後期	2	
			プログラミングⅡ演習	1年	後期	1	
			プログラミングⅢ	2年	第2ターム		2
			情報科学基礎実験a	2年	通年	1	
			情報科学基礎実験b	2年	通年	1	
			情報科学基礎実験c	2年	通年	1	
			データ構造とアルゴリズムⅡ	2年	第2ターム		2
			情報システム開発	2年	第3ターム		2
			情報システム	データベース	3年	第1ターム	2
	オペレーティングシステム			2年	第3ターム	2	
	システム開発実践			3年	通年		2
	情報通信 ネットワーク		情報ネットワーク	2年	第1ターム	2	
			情報セキュリティ基礎	2年	第3ターム		2
			デジタル信号処理	3年	第3ターム		2
			ネットワーク設計	3年	第1ターム		2
			ワイヤレスネットワーク	3年	第4ターム		2
			ネットワークプロトコル	2年	第3ターム		2
	マルチメディア 表現・マルチ メディア技術		コンピュータグラフィックスⅠ	2年	第4ターム	2	
			画像情報処理	3年	第4ターム	2	
ネットワーク基盤技術		3年	第2ターム		2		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません	教科教育法（情報）Ⅰ	3年	前期	2			
	教科教育法（情報）Ⅱ	3年	後期	2			
		24	必修合計			28	

知能工学科

①免許種：高等学校教諭一種免許状（数学）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			高一種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択
教科に関する専門的事項	代 数 学	24	線形代数学ⅠA	1年	第1ターム	1	
			線形代数学ⅠB	1年	第2ターム	1	
			線形代数学ⅡA	1年	第3ターム	1	
			線形代数学ⅡB	1年	第4ターム	1	
	幾 何 学		幾何学概論 ※卒業要件に含まれない	2年	第1ターム	2	
			離散数学	2年	第1ターム	2	
			グラフ理論	2年	第4ターム		2
	解 析 学		パターン認識	3年	第2ターム		2
			解析学ⅠA	1年	第1ターム	1	
			解析学ⅠB	1年	第2ターム	1	
			解析学Ⅱ	1年	後期	2	
			常微分方程式	2年	第1ターム		2
	「確率論、統計学」		情報基礎数学	2年	第2ターム		2
			数値解析	2年	第4ターム		2
	コンピュータ		確率統計	2年	第1ターム	2	
			情報理論	3年	第1ターム		2
			オートマトンと形式言語	2年	第2ターム		2
			データ構造とアルゴリズムⅠ	1年	後期	2	
			プログラミングⅠ	1年	前期	2	
			プログラミングⅠ演習	1年	前期	1	
			実社会指向基礎数学	1年	後期		2
			数理論理学	2年	第3ターム		2
	計算論		3年	第2ターム		2	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません	教科教育法(数学)Ⅰ	3年	前期	2			
	教科教育法(数学)Ⅱ	3年	後期	2			
		24	必修合計			23	

②免許種：高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する大学の開設授業科目			高一種免	
科目区分	各科目に含めることが必要事項	最低修得単位数	授業科目名	開設年次	学期	必修	選択
教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む）・情報倫理	24	情報社会論 ※全学共通系科目	1・2年	後期	2	
			知的財産権	2～4年	前期	2	
			情報と職業	2～4年	前期	2	
	コンピュータ・情報処理		コンピュータ基礎	1年	前期	2	
			プログラミングⅡ	1年	後期	2	
			プログラミングⅡ演習	1年	後期	1	
			プログラミングⅢ	2年	第3ターム		2
			プログラミングⅢ演習	2年	第3ターム		1
			情報科学基礎実験a	2年	通年	1	
			情報科学基礎実験b	2年	通年	1	
			情報科学基礎実験c	2年	通年	1	
			データ構造とアルゴリズムⅡ	2年	第2ターム		2
			コンパイラ	3年	第2ターム		2
			記号処理プログラミング	3年	第1ターム		2
	情報システム		ソフトウェア工学概説	3年	第4ターム		2
			データベース	3年	第1ターム	2	
			オペレーティングシステム	2年	第4ターム	2	
			情報検索	3年	第3ターム		2
			人工知能	3年	第2ターム		2
	情報通信ネットワーク		システム開発実践	3年	通年		2
			情報ネットワーク	2年	第1ターム	2	
	マルチメディア表現・マルチメディア技術		情報セキュリティ基礎	2年	第3ターム		2
			コンピュータグラフィックスⅠ	2年	第4ターム	2	
			画像情報処理	3年	第4ターム	2	
			デジタル信号処理	2年	第3ターム		2
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ※卒業要件単位にはなりません		コンピュータグラフィックスⅡ	3年	第2ターム		2
			教科教育法（情報）Ⅰ	3年	前期	2	
	教科教育法（情報）Ⅱ	3年	後期	2			
	24	必修合計				28	

システム工学科

①免許種：高等学校教諭一種免許状（数学）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			高一種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択
教科に 関する 専門的 事項	代 数 学	24	線形代数学ⅠA	1年	第1ターム	1	
			線形代数学ⅠB	1年	第2ターム	1	
			線形代数学ⅡA	1年	第3ターム	1	
			線形代数学ⅡB	1年	第4ターム	1	
			情報代数学	3年	第1ターム		2
	幾 何 学		幾何学概論 ※卒業要件に含まれる	2年	第1ターム	2	
			離散数学	2年	第1ターム	2	
			応用幾何学	2年	第3ターム		2
			パターン認識	3年	第2ターム		2
	解 析 学		解析学ⅠA	1年	第1ターム	1	
			解析学ⅠB	1年	第2ターム	1	
			解析学Ⅱ	1年	後期	2	
			常微分方程式	2年	第1ターム		2
			情報基礎数学	2年	第2ターム		2
			数値計算法	3年	第1ターム		2
			偏微分方程式	3年	第4ターム		2
	[確率論、統計学]		確率統計	2年	第1ターム	2	
			情報理論	2年	第1ターム		2
			確率過程論	3年	第1ターム		2
	コ ン ピ ュ ー タ		データ構造とアルゴリズムⅠ	1年	後期	2	
			プログラミングⅠ	1年	前期	2	
			プログラミングⅠ演習	1年	前期	1	
			実社会指向基礎数学	1年	後期		2
			教科教育法（数学）Ⅰ	3年	前期	2	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません	教科教育法（数学）Ⅱ	3年	後期	2			
	必修合計					23	
		24					

②免許種：高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			高一種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択
教科に関する専門的 事項	情報社会（職業に関する内容を 含む）・情報倫理	24	情報社会論 ※全学共通系科目	1・2年	後期	2	
			知的財産権	2～4年	前期	2	
	情報と職業		2～4年	前期	2		
	コンピュータ・ 情報処理		コンピュータ基礎	1年	前期	2	
			プログラミングⅡ	1年	後期	2	
			プログラミングⅡ演習	1年	後期	1	
			プログラミングⅢ	2年	第1ターム		2
			プログラミングⅢ演習	2年	第2ターム		1
			情報科学基礎実験a	2年	通年	1	
			情報科学基礎実験b	2年	通年	1	
			情報科学基礎実験c	2年	通年	1	
			データ構造とアルゴリズムⅡ	2年	第2ターム		2
			電子回路	2年	第4ターム		2
			離散時間システム	2年	第4ターム		2
			制御工学Ⅰ	3年	第2ターム		2
			ソフトコンピューティング	3年	第4ターム		2
			ソフトウェア工学概説	3年	第3ターム		2
	情報システム		データベース	3年	第1ターム	2	
			オペレーティングシステム	2年	第3ターム	2	
			ヒューマンインタフェースⅠ	3年	第1ターム		2
			システム開発実践	3年	通年		2
	情報通信 ネットワーク		情報ネットワーク	2年	第1ターム	2	
			情報セキュリティ応用	3年	第4ターム		2
			デジタル無線通信	3年	第2ターム		2
	マルチメディア 表現・マルチ メディア技術		コンピュータグラフィックス	2年	第4ターム	2	
			画像情報処理	3年	第3ターム	2	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません		教科教育法（情報）Ⅰ	3年	前期	2	
教科教育法（情報）Ⅱ		3年	後期	2			
		24	必修合計			28	

医用情報科学科

①免許種：高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			高一種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択
教科に 関する 専門的 事項	情報社会（職業 に関する内容を 含む。）・情報倫理	24	情報社会論 ※全学共通系科目	1・2年	後期	2	
			知的財産権	2～4年	前期	2	
			情報と職業	2～4年	前期	2	
	コンピュータ・ 情報処理		コンピュータ基礎	1年	前期	2	
			プログラミングⅡ	1年	後期	2	
			プログラミングⅡ演習	1年	後期	1	
			電気電子計測	3年	第2ターム		2
			情報科学基礎実験a	2年	通年	1	
			情報科学基礎実験b	2年	通年	1	
			情報科学基礎実験c	2年	通年	1	
			データ構造とアルゴリズムⅡ	2年	第2ターム		2
	デジタル信号処理		3年	第1ターム		2	
	情報システム		データベース ※教職履修者のみ	3年	第1ターム	2	
			オペレーティングシステム ※教職履修者のみ	2年	第3ターム	2	
	情報通信 ネットワーク		情報ネットワーク	2年	第1ターム	2	
			情報セキュリティ基礎	2年	第3ターム		2
			ワイヤレスネットワーク ※教職履修者のみ	3年	第4ターム		2
	マルチメディア表現・ マルチメディア技術		医用画像処理	3年	第3ターム	2	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません		教科教育法（情報）Ⅰ	3年	前期	2	
			教科教育法（情報）Ⅱ	3年	後期	2	
	24	必修合計				26	

教科及び教科の指導法に関する科目 (芸術学部)

美術学科 日本画専攻

免許種：中学校教諭一種免許状 (美術)、高等学校教諭一種免許状 (美術)

免許法施行規則に定める科目区分等		中 種	高 種	左記に対応する本学の開設授業科目			中一種免		高一種免	
科目区分	各科目に含めることが必要事項	最低修得単位数		授業科目名	開設年次	学期	必修	選択	必修	選択
教科に関する専門的事項	絵画 (映像メディア表現を含む。)	28	24	日本画実習ⅠA	1年	前期	4		4	
				日本画実習ⅠB	1年	後期	4		4	
				日本画実習ⅡA	2年	前期	6		6	
				日本画実習ⅡB	2年	後期	4		4	
				日本画実習ⅢA	3年	前期	6		6	
				日本画実習ⅢB	3年	後期	4		4	
				日本画実習Ⅳ	4年	通年	10		10	
				デッサン実習Ⅰ	1年	後期	2		2	
				デッサン実習Ⅱ	2年	前期	2		2	
				デッサン実習Ⅲ	3年	後期	2		2	
				材料実習Ⅰ	1年	前期	2		2	
				材料実習Ⅱ (金属材料)	2年	後期	2		2	
				材料実習Ⅲ	3年	前期	2		2	
				絵画論演習	4年	後期	2		2	
	技法演習 (裏打技法)	4年	前期	2		2				
	彫刻			彫塑演習	2年	後期	2		2	
	デザイン (映像メディア表現を含む。)			構成演習Ⅰ (平面)	1年	後期	2		2	
				構成演習Ⅱ (平面)	2年	後期	1		1	
				構成実習 (平面)	3年	後期	2		2	
	美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)			美学Ⅰ	2年	前期	2		2	
				美学Ⅱ	2年	後期	2		2	
				日本美術史Ⅰ	2年	前期	2		2	
				日本美術史Ⅱ	2年	後期	2		2	
				東洋美術史Ⅰ	3年	前期	2		2	
				東洋美術史Ⅱ	3年	後期	2		2	
				西洋美術史Ⅰ	2年	前期	2		2	
				西洋美術史Ⅱ	2年	後期	2		2	
				美術解剖学Ⅰ	1年	前期		2		2
				美術解剖学Ⅱ	1年	後期		2		2
	工芸			材料技法演習 (木工)	2年	第3ターム		1		
				材料技法演習 (塗装)	2年	第4ターム		1		
				工芸制作A (演習)	2年	前期	2			
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ※卒業要件単位にはなりません			教科教育法 (美術) AⅠ	2年	前期	2			2	
			教科教育法 (美術) AⅡ	2年	後期	2			2	
			教科教育法 (美術) BⅠ	3年	前期	2		2		
			教科教育法 (美術) BⅡ	3年	後期	2		2		
		28	24	必修合計			87		81	

美術学科 油絵専攻

免許種：中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術）

免許法施行規則に定める科目区分等		中 一 種	高 一 種	左記に対応する本学の開設授業科目				中一 種免		高一 種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数		授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択	必修	選択	
教科に関する専門的事項	絵 画 (映像メディア表現を含む。)	28	24	油絵基礎演習	1年	前期	2		2		
				油絵実習Ⅰ	1年	後期	4		4		
				油絵実習ⅡA	2年	前期	5		5		
				油絵実習ⅡB	2年	後期	2		2		
				油絵実習ⅢA	3年	前期	6		6		
				油絵実習ⅢB	3年	後期	6		6		
				油絵実習ⅣA	4年	前期	6		6		
				油絵実習ⅣB	4年	後期	6		6		
				デッサン実習Ⅰ	1年	前期	4		4		
				デッサン実習Ⅱ	2年	後期	2		2		
				デッサン実習Ⅲ	3年	後期	2		2		
				版画制作実習Ⅰ	1年	後期	2		2		
	版画制作実習Ⅱ			2年	前期	3		3			
	彫 刻			彫塑演習	1年	後期	2		2		
				デ ザ イ ン (映像メディア表現を含む。)	構成演習Ⅰ	1年	前期	2		2	
					構成演習Ⅱ	2年	後期	2		2	
	構成演習Ⅲ				3年	前期	2		2		
	美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジ アの美術を含む。)			美学Ⅰ	2年	前期	2		2		
				美学Ⅱ	2年	後期	2		2		
				日本美術史Ⅰ	2年	前期	2		2		
				日本美術史Ⅱ	2年	後期	2		2		
				東洋美術史Ⅰ	3年	前期	2		2		
				東洋美術史Ⅱ	3年	後期	2		2		
				西洋美術史Ⅰ	2年	前期	2		2		
				西洋美術史Ⅱ	2年	後期	2		2		
				美術解剖学Ⅰ	1年	前期		2		2	
				美術解剖学Ⅱ	1年	後期		2		2	
	工 芸			材料技法演習（木工）	2年	第3ターム		1			
				材料技法演習（塗装）	2年	第4ターム		1			
				工芸制作A（演習）	2年	前期	2				
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません	教科教育法（美術）AⅠ	2年	前期	2			2				
	教科教育法（美術）AⅡ	2年	後期	2			2				
	教科教育法（美術）BⅠ	3年	前期	2			2				
	教科教育法（美術）BⅡ	3年	後期	2			2				
		28	24	必修合計				84		78	

美術学科 彫刻専攻

免許種：中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術）

免許法施行規則に定める科目区分等		中 一 種	高 一 種	左記に対応する本学の開設授業科目			中一 種免		高一 種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数		授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択	必修	選択
教科に関する専門的事項	絵 画 (映像メディア表現を含む。)	28	24	デッサン実習Ⅰ	1年	通年	2		2	
				デッサン実習Ⅱ	2年	後期	2		2	
				デッサン実習Ⅲ	3年	前期	2		2	
	彫 刻			彫刻実習Ⅰ	1年	通年	8		8	
				彫刻実習ⅡA	2年	前期	6		6	
				彫刻実習ⅡB	2年	後期	4		4	
				彫刻実習ⅢA	3年	前期	6		6	
				彫刻実習ⅢB	3年	後期	4		4	
				彫刻実習Ⅳ	4年	通年	10		10	
				彫刻論（古典研究を含む。）	3年	前期	2		2	
				構成演習Ⅰ	1年	前期	2		2	
	デ ザ イン (映像メディア表現を含む。)			構成演習Ⅱ（平面・立体）	2年	後期	2		2	
				構成演習Ⅲ（立体）	3年	後期	2		2	
				美学Ⅰ	2年	前期	2		2	
	美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)			美学Ⅱ	2年	後期	2		2	
				日本美術史Ⅰ	2年	前期	2		2	
				日本美術史Ⅱ	2年	後期	2		2	
				東洋美術史Ⅰ	3年	前期	2		2	
				東洋美術史Ⅱ	3年	後期	2		2	
				西洋美術史Ⅰ	2年	前期	2		2	
				西洋美術史Ⅱ	2年	後期	2		2	
				美術解剖学Ⅰ	1年	前期			2	2
	美術解剖学Ⅱ			1年	後期			2	2	
	工 芸			実在制作基礎演習 (工芸制作を含む。)	1年	後期	4			
				実材制作実習Ⅰ	2年	前期	2			
				実材制作実習Ⅱ	3年	後期	2			
				材料技法演習（木工）	2年	第3ターム			1	
				材料技法演習（塗装）	2年	第4ターム			1	
工芸制作A（演習）		2年	前期			2				
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。) ※卒業要件単位にはなりません		教科教育法（美術）AⅠ	2年	前期	2			2		
	教科教育法（美術）AⅡ	2年	後期	2			2			
	教科教育法（美術）BⅠ	3年	前期	2			2			
	教科教育法（美術）BⅡ	3年	後期	2			2			
		28	24	必修合計			84		72	

デザイン工芸学科

①免許種：中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術）

免許法施行規則に定める科目区分等		中 一 種	高 一 種	左記に対応する本学の開設授業科目				中一 種免		高一 種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数		授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択	必修	選択	
教科に 関する 専門的 事項	絵 画 (映像メディア 表現を含む。)	28	24	描出演習Ⅰ	1年	後期	2		2		
				描出演習Ⅱ	2年	後期	2		2		
	彫 刻			形体演習Ⅰ	1年	前期	2		2		
				形体演習Ⅱ	2年	前期	2		2		
	デ ザ イ ン (映像メディア 表現を含む。)			造形実習ⅠA	1年	前期	4		4		
				造形実習ⅠB	1年	後期	4		4		
				造形実習ⅢB	3年	後期	6		6		
	美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジ アの美術を含む。)			美学Ⅰ	2年	前期	2		2		
				美学Ⅱ	2年	後期	2		2		
				日本美術史Ⅰ	2年	前期	2		2		
				日本美術史Ⅱ	2年	後期	2		2		
				東洋美術史Ⅰ	3年	前期	2		2		
				東洋美術史Ⅱ	3年	後期	2		2		
				西洋美術史Ⅰ	2年	前期	2		2		
				西洋美術史Ⅱ	2年	後期	2		2		
	工 芸			美術解剖学Ⅰ	1年	前期			2		2
				美術解剖学Ⅱ	1年	後期			2		2
				造形実習ⅡA	2年	前期	6				
				造形実習ⅡB	2年	後期	6				
				造形実習ⅢA	3年	前期	6				
造形研究（演習）		4年	前期	12							
材料技法演習（木工）		2年	第3ターム		1						
材料技法演習（塗装）		2年	第4ターム		1						
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません	教科教育法（美術）AⅠ	2年	前期	2			2				
	教科教育法（美術）AⅡ	2年	後期	2			2				
	教科教育法（美術）BⅠ	3年	前期	2			2				
	教科教育法（美術）BⅡ	3年	後期	2			2				
		28	24	必修合計				76	42		

②免許種：高等学校教諭一種免許状（工芸）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			高一種免	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要事項	最低修得 単位数	授業科目名	開設 年次	学期	必修	選択
教科に 関する 専門的 事項	図法・製図	24	図法及び製図	2年	後期	2	
	デザイン		造形実習ⅠA	1年	前期	4	
			造形実習ⅠB	1年	後期	4	
			造形実習ⅢA	3年	前期	6	
			造形実習ⅢB	3年	後期	6	
	工芸制作 (プロダクト制作 を含む。)		造形実習ⅡA	2年	前期	6	
			造形実習ⅡB	2年	後期	6	
			造形研究(演習)	4年	前期	12	
			工芸制作B(演習)	2年	前期	2	
	工芸理論・ デザイン理論・ 美術史 (鑑賞並びに日本 の伝統及びアジア の工芸を含む。)		工芸概論	1年	前期	2	
			デザイン概論	1年	前期	2	
			色彩論	1年	後期		2
			現代美術論	3年	後期		2
			工芸材料概説	2年	前期		2
			日本美術史Ⅰ	2年	前期	2	
			日本美術史Ⅱ	2年	後期	2	
			東洋美術史Ⅰ	3年	前期	2	
			東洋美術史Ⅱ	3年	後期	2	
			西洋美術史Ⅰ	2年	前期	2	
	西洋美術史Ⅱ		2年	後期	2		
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。) ※卒業要件 単位にはなりません		美術解剖学Ⅰ	1年	前期		2
美術解剖学Ⅱ		1年	後期		2		
			教科教育法(工芸)Ⅰ	3年	前期	2	
			教科教育法(工芸)Ⅱ	3年	後期	2	
		24	必修合計			68	

学芸員養成課程

学芸員を目指す人へ

本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ、博物館法に定めるところにより所定の単位を修得すれば、美術館等で学芸員の職に就くための学芸員資格を取得できます。希望者はいちぼる（UNIPA）で希望資格登録をしてください。

学芸員養成課程は芸術学部開設しており、学芸員資格取得関係科目については、下記を参照してください。

学芸員資格取得関係科目表

1. 学芸員資格取得関係科目表

博物館法に定める必修 選択の別及び科目の名称		本学が開講する 授業科目の名称	単位数	開設 年次	開設 学期	他学部履修の要否 (国際学部)
必修科目	生涯学習概論	生涯学習概論	2	1年	後期	不要
	博物館教育論	博物館教育論	2	3年	前期	要
	博物館資料論	博物館資料論	2	2年	後期	要
	博物館概論	博物館概論	2	2年	前期	要
	博物館経営論	博物館経営論	2	3年	後期	要
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	3年	後期	要
	博物館展示論	博物館展示論	2	3年	後期	要
	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	3年	後期	要
	博物館実習	博物館実習（注1）	3	4年	通期	要
選択科目A 最低修得単位数 8単位	日本美術史Ⅰ	日本美術史Ⅰ	2	2年	前期	要
	日本美術史Ⅱ	日本美術史Ⅱ	2	2年	後期	要
	東洋美術史Ⅰ	東洋美術史Ⅰ	2	3年	後期	要
	東洋美術史Ⅱ	東洋美術史Ⅱ	2	3年	後期	要
	西洋美術史Ⅰ	西洋美術史Ⅰ	2	2年	前期	要
	西洋美術史Ⅱ	西洋美術史Ⅱ	2	2年	後期	要
選択科目B 最低修得単位数 2単位	コンピュータとアート	コンピュータとアート	2	2年	後期	不要
	工芸概論	工芸概論	2	1年	前期	要
	現代美術論	現代美術論	2	3年	後期	要
	工芸材料概説	工芸材料概説	2	2年	前期	要

(注1) 受講希望者多数の場合は、人数を制限する場合があります。

2. 博物館実習受講条件

4年次における「博物館実習」は、学芸員養成課程の最終段階における科目であり、関係科目で学んだ知識・技術や理論を活かして学修するものです。したがって「博物館実習」を履修するためには、3年次末までに下表に記載した受講条件をいずれも満たす必要があります。

受講条件	対象科目
① 3年次末までに単位修得	「生涯学習概論」、「博物館概論」、「博物館資料論」
② 3年次末までにすべて受講し、6単位以上修得 (ただし成績評価が欠席を原因とした「不可」の場合は、 受講したとみなされません。)	「博物館教育論」、「博物館経営論」、「博物館資料保存論」、 「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」

※上記の条件①、②をすべて満たしていなければ、4年次に博物館実習の受講はできません。

附属施設等の利用について

開館・利用時間等は、各ホームページから最新情報を確認してください。
各施設の場所は、[キャンパスマップ](#)をご覧ください。

1	附属図書館	附属図書館オリジナルサイト (年間カレンダー) 電話 082-830-1508
2	語学センター	語学センターオリジナルサイト 電話 082-830-1509
3	情報処理センター	情報処理センターオリジナルサイト 電話 082-830-1511
4	心と身体の相談センター	心と身体の相談センター (大学ホームページ) 電話 082-830-1510
	保健室	応急手当、健康相談、健康チェック等 (本部棟1階)
	相談室	カウンセリング (本部棟1階)
5	法律相談	紙屋町法律相談センターでの法律相談 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)
6	売店	(学生会館2階)
	コンビニ	文房具、弁当、生活用品、書籍等 [生活彩家]、[紀伊国屋書店]
	画材店	画材等 [ピカソ画房]
7	学生食堂	定食、めん類、カレー等 (学生会館1階)
8	喫茶	軽食類、デザート類、コーヒー等 (学生会館1階)
9	駐車場	構内駐車場の利用申請 (大学ホームページ) 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)
10	キャッシュコーナー	ゆうちょ銀行ATM (学生会館2階)
11	集会室 、 体育館 、 テニスコート 、 グラウンド	利用申込が必要 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)

あしがき

2025年度版「学修の手引き」は大きな一歩を踏み出しました。

2023年11月に事務局がおこなった「大学生活でわからないことがあったとき、どのように解決しているか」のアンケート調査において、わからないことがあれば「学修の手引き」を活用するという意見が多い一方で、「学修の手引き」が分かりづらいという意見が数多く寄せられました。

そこで、市大生にとって分かりやすく親しみのある「学修の手引き」を目指すべく、有志の学生と教職員による課題解決プロジェクトが立ち上がりました。2024年1月から活動を始め、他大学の事例の調査やインタビュー調査などに加え、表紙コンテストを新たに企画するなど、約1年間かけて市大生の声を形にし、この「学修の手引き」ができました。

これからも「学修の手引き」は市大生の声とともにあります。

課題解決プロジェクトメンバー

情報科学研究科 2年 原 惇樹
 国際学部 4年 中田 花歩
 情報科学部 3年 藤田 太陽
 事務局教務グループ職員
 教育基盤センター教員

表紙コンテスト優秀賞

情報科学部 4年 岩政 佳希

